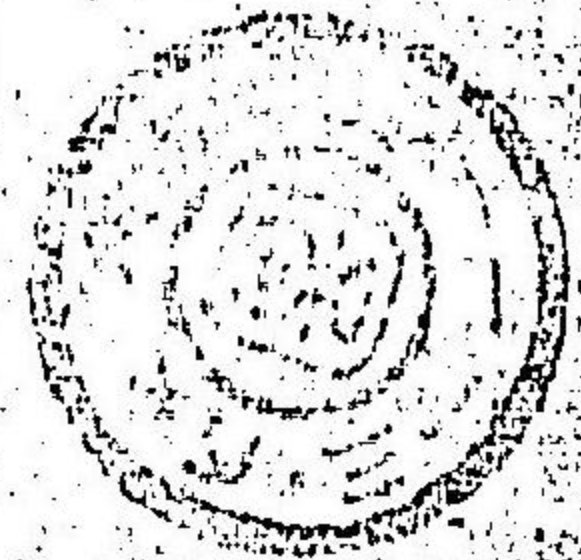


長尾景弼編輯

日本宗法全書 上卷

博聞社藏版



衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目	同	二
○貴族院令		
貴族院伯子男爵議員選舉規則	八十九丁	
貴族院多額納稅者議員互選規則	九十二丁	
貴族院令并伯子男爵及多額納稅者議員互選規則施行ノ詔勅	九十五丁	
貴族院議員資格及ヒ選舉爭訟判決規則	九十九丁	
貴族院多額納稅者議員互選取扱方規則	同	
○會計法	百三丁	
會計法補則	百四丁	
○裁判所構成法	百十二丁	
裁判所構成法施行條例	百十五丁	
地方裁判所支部及管轄表	百四十七丁	
判事懲戒法	百五十二丁	
判事檢事官等俸給令	百五十七丁	
裁判所書記長書記ノ官等俸給	百六十六丁	
執達吏規則	百七十二丁	
執達吏手數料規則	百七十三丁	
	百七十八丁	

執達吏登用規則	百八十五丁	
執達吏ニ交付ノ鑑札雛形	百八十九丁	
○行政裁判法	百九十九丁	
行政裁判所評定官ノ員數并書記ノ員數及職務ノ件	百九十九丁	
訴願法	二百丁	
行政裁判所處務規程	二百四丁	
行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件	二百六丁	
行政裁判所假廳開廳	二百七丁	
集會及政社法	同	

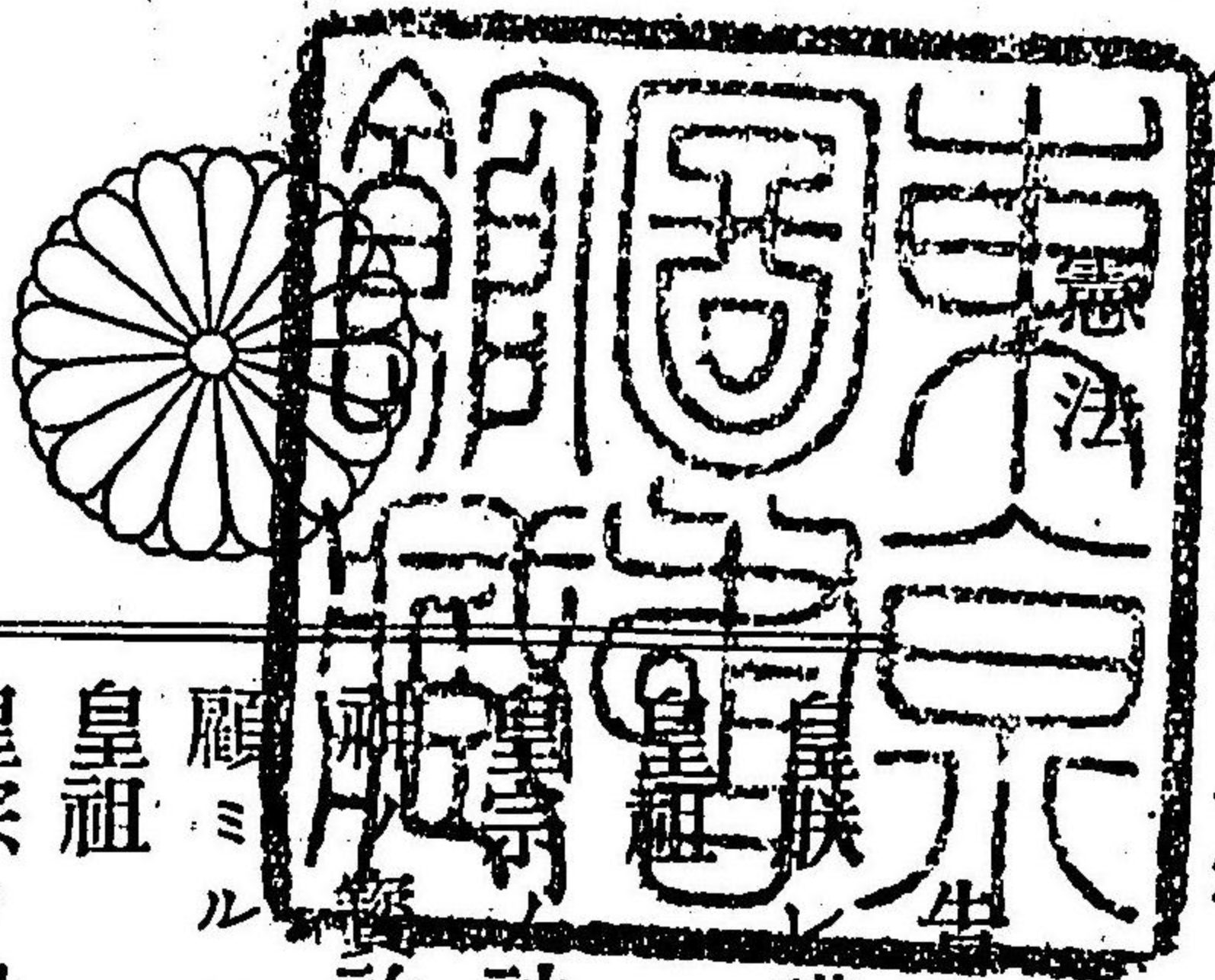
民法		
○人事編	一丁	
○財產編	五十七丁	
○財產取得編	二百十一丁	
○財產取得編續	二百九十五丁	
○債權擔保編	三百二十三丁	
○證據編	四百十五丁	
附		
總目錄	三	

憲法

土地收用法	四百五十六丁
土地收用法協議會規則	四百六十五丁
市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱件	四百六十六丁
供託規則	四百六十七丁
增價競賣法	四百六十八丁
財産委棄法	四百七十一丁
裁判上代位法	四百七十二丁
辨濟提供規則	四百七十三丁

No 6560/23

日本六法全書上卷



文 謹ミ畏ミ

長尾景彌編輯



皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此

皇祖 皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此

憲法

レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナ
ラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ
洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

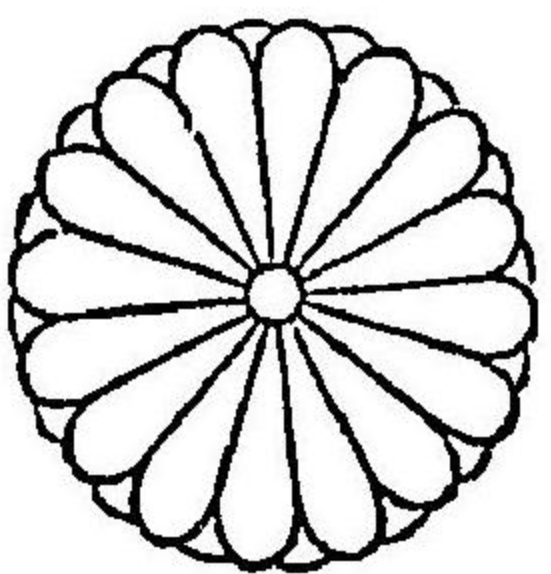
皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ
此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ庶幾クハ
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ
祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ
不磨ノ大典ヲ宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我
カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖
宗ノ威徳ト竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ
以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民
ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ
意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝
國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシ
ムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハ
サルナリ



朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシメムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法

ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 遞信大臣 伯爵榎本武揚

大日本帝國憲法

第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
- 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
- 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
- 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
- 此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ
- 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル

- 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス
- 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム
- 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス
- 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス
- 戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス
- 第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス
- 第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル
- 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

- 第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
- 第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得
- 第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス
- 第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス
- 第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス
- 第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

- 第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナシ
- 第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラレコトナシ

- 第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サルコトナシ
- 第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナシ
- 公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
- 第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

- 第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス
- 第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得
- 第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

- 第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

- 第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス
- 第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組

憲法

- 第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス
- 第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス
- 第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス
- 第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各「法律案ヲ提出スルヲ得
- 第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス
- 第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各「其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス
- 第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス
- 第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ
- 第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ
- 臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル
- 第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ
- 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ
- 第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日

ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

- 第四十六條 兩議院ハ各「其ノ總議員二分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得
- 第四十九條 兩議院ハ各「天皇ニ上奏スルコトヲ得
- 第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得
- 第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得
- 第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セララルヘシ
- 第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ
- 第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其實ニ任ス

凡テ法律勅令其他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具ソル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ
懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ

法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラス豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

憲法

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス
第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス
第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用非タルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行

ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

附

○皇室典範

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

憲法附錄 皇室典範

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若クハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王妃女王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫アラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

憲法附錄 皇室典範

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第二十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ヲ謂フ

第二十一條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ女王ヲ女王トス

第二十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ女王王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第二十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第二十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第二十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第二十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ執行ス

第二十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官寮ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ

天皇ハ其父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第二十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第二十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ
第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女
王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス
第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大
臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム
第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル
第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅
裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代
人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス
第五十二條 皇族其品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ

之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條 皇族湯産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘ
シ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス
第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法
大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム
第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル
第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ
以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ
第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及
樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

○法例

朕法例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年十月六日

農商務大臣	陸奧宗光
文部大臣	芳川顯正
海軍大臣	子爵樺山資紀
外務大臣	子爵青木周藏
遞信大臣	伯爵後藤象二郎
陸軍大臣	伯爵大山巖
大藏大臣	伯爵松方正義
司法大臣	伯爵山田顯義
內務大臣	伯爵西郷從道
內閣總理大臣	伯爵山縣有朋

法律第九十七號

法例

第一條 法律ハ公布アリタル日ヨリ滿二十日ノ後ハ之ヲ遵守ス可キモノトス
但法律ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二條 法律ハ既往ニ遡ル效力ヲ有セス

第三條 人ノ身分及ヒ能力ハ其本國法ニ從フ
親屬ノ關係及ヒ其關係ヨリ生スル權利義務ニ付テモ亦同シ

第四條 動産、不動産ハ其所在地ノ法律ニ從フ
然レトモ相續及ヒ遺贈ニ付テハ被相續人及ヒ遺贈者ノ本國法ニ從フ

第五條 外國ニ於テ爲シタル合意ニ付テハ當事者ノ明示又ハ默示ノ意思ニ從ヒテ何レノ國ノ法律ヲ適用ス可キヤヲ定ム
當事者ノ意思分明ナラサル場合ニ於テハ同國人ナルトキハ其本國法ヲ適用シ又同國人ニ非サルトキハ事實上合意ニ最大ノ關係ヲ有スル地ノ法律ヲ適用ス

第六條 外國人カ日本ニ於テ日本人ト合意ヲ爲ストキハ外國人ノ能力ニ付テハ其本國法ト日本法トノ中ニテ合意ノ成立ニ最モ有益ナル法律ヲ適用ス

第七條 不當ノ利得、不正ノ損害及ヒ法律上ノ管理ハ其原因ノ生シタル地ノ法律ニ從フ

第八條 本國法ヲ適用ス可キ諸般ノ場合ニ於テ何レノ國民分限ヲモ有セサル者又ハ地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民ハ其住所ノ法律ニ從フ若シ住所知レサルトキハ其居所ノ法律ニ從フ

日本人ト外國人トノ分限ヲ有スル者ハ日本法律ニ從ヒ又二箇以上ノ外國國民分限ヲ有ス

憲法附錄 法例

ル者ハ最後ニ之ヲ取得シタル國ノ法律ニ從フ
 第九條 公正證書及ヒ私署證書ノ方式ハ之ヲ作ル國ノ法律ニ從フ但一人又ハ同國人ナル數人ノ作ル私署證書ニ付テハ其本國法ニ從フコトヲ得
 第十條 要式ノ合意又ハ行爲ト雖モ之ヲ爲ス國ノ方式ニ從フトキハ方式上有效トス但故意ヲ以テ日本法律ヲ脱シタルトキハ此限ニ在ラス
 第十一條 外國ニ於テ其國ノ方式ニ依リテ作リタル證書ハ不動產物權ヲ移轉スル行爲ニ係ルトキハ其不動產所在地ノ地方裁判所長又他ノ行爲ニ係ルトキハ當事者ノ住所又ハ居所ノ地方裁判所長其證書ノ適法ナルコトヲ檢認シタル上ニ非サレハ日本ニ於テ其效用ヲ致サシムルコトヲ得ス
 第十二條 第三者ノ利益ノ爲メニ設定スル公示ノ方式ハ不動產ニ係ルトキハ其所在地ノ法律、他ノ場合ニ於テハ其原因ノ生シタル國ノ法律ニ從フ
 第十三條 訴訟手續ハ其訴訟ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ
 裁判及ヒ合意ノ執行方法ハ其執行ヲ爲ス國ノ法律ニ從フ
 第十四條 刑法其他公法ノ事項ニ關シ及ヒ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スルトキハ行爲ノ地、當事者ノ國民分限及ヒ財產ノ性質ノ如何ヲ問ハス日本法律ヲ適用ス
 第十五條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ關スル法律ニ抵觸シ又ハ其適用ヲ免カレントスル合意又ハ行爲ハ不成立トス
 第十六條 身分又ハ能力ヲ規定スル法律ヲ免カルル合意又ハ行爲ハ無效トス
 第十七條 判事ハ法律ニ不明、不備又ハ欠缺アルヲ口實トシテ裁判ヲ爲スヲ拒絕スルコトヲ得ス

○議院法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
 樞密院議長 伯爵伊藤博文
 外務大臣 伯爵大隈重信
 海軍大臣 伯爵西郷從道
 農商務大臣 伯爵井上馨
 司法大臣 伯爵山田顯義
 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
 陸軍大臣 伯爵大山巖
 文部大臣 伯爵森有禮

法律第二號
議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ
 第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ
 第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セララル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ

任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ出席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラズ

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハ

シムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セララル、マテハ仍其ノ

職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ堂理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆

憲法附錄 議院法

議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員

ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上ス

ヘシ

三十

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 祕密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ祕密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用非スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 祕密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラズ

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣

及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サハルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セントスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用非可非同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩院院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用非政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用非ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

憲法附錄 議院法

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラレ、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預ルコトヲ得ス

第十六章 請暇辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得
第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス
第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用非ルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク
懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ罷責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

○貴族院事務局官制

朕貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋

勅令第百二十一號

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

憲法附錄 議院法

書記官長

書記官

十八

試補

二人

屬

二十八

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ

分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

○衆議院事務局官制

朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

勅令第百二十二號

衆議院事務局官制

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

十八

試補

二人

屬

二十八

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ

分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

○議會並議員保護

朕議會並議員保護ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十一月七日

内閣總理大臣 公爵三條實美

司法大臣 伯爵山田顯義

憲法附錄 議院法

法律第二十八號

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○帝國議會召集ノ詔勅

朕帝國憲法第七條及第四十一條ニ依リ本年十一月二十五日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

御名 御璽

明治二十三年十月九日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋

- 內務大臣 伯爵西鄉從道
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山 巖
- 逓信大臣 伯爵後藤象二郎
- 外務大臣 子爵青木周藏
- 海軍大臣 子爵樺山資紀
- 文部大臣 芳川顯正
- 農商務大臣 陸奧宗光

○貴族院衆議院成立規則

朕帝國議會初度ノ召集ニ際シ議院時ニ及テ自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ必要ヲ認メ兩議院ノ爲ニ假ニ成立規則ヲ公布セシメ成立ノ際各議院ヲシテ遵依スル所アラシム

御名 御璽

明治二十三年十月十日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋
內務大臣 伯爵西鄉從道

司法大臣 伯爵山田顯義
 大藏大臣 伯爵松方正義
 陸軍大臣 伯爵大山 巖
 逓信大臣 伯爵後藤象二郎
 外務大臣 子爵青木周藏
 海軍大臣 子爵樺山資紀
 文部大臣 芳川顯正
 農商務大臣 陸奥宗光

勅令第二百二十號

貴族院成立規則

- 第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時貴族院ニ集會スヘシ
- 第二條 集會シタル議員ハ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ
- 第三條 集會シタル議員總議員三分ノ一以上ニ充テタルトキハ議長ハ議長席ニ著クヘシ
- 第四條 議員ノ席次ハ皇族ヲ首席トシ其ノ席次ハ宮中ノ列次ニ依ル爵位ヲ有スル議員ヲ次席トシ其ノ席次ハ爵位次第二ニ依ル其ノ他ノ議員ノ席次ハ年齢ニ依リ同年月ナルトキハ抽

籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 議長ハ書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ヲ九部ニ配分シ各部ニ號數ヲ附ス均分スルト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下毎部一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第六條 部屬ハ每會期ニ之ヲ定ム

臨時會ニ於テハ前會ノ部屬ヲ繼續スヘシ

第七條 各部ハ年長部員ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス
 最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第九條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第十條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第十一條 部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及衆議院ニ通報スヘシ

衆議院成立規則

憲法附錄 議院法

第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記官ハ當選人名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ

第三條 午前十時ニ至リ集會者總議員三分ノ一ニ充テタルトキハ書記官長ハ議員ヲシテ議長候補者ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

第四條 議長候補者ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ連記スヘシ

第五條 議員ハ黙呼ニ應シ議長席ノ前ニ設ケタル投票函ニ投票ヲ投入シ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

現在議員投票ヲ終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ閉鎖宣告ノ後ハ投票スルコトヲ許サス

第六條 投票終リタルトキハ書記官長、書記官ト俱ニ議員ノ面前ニ於テ投票ノ數ヲ計算シ投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第七條 投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得點ヲ議員ニ報告シ投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第八條 投票ノ過半数ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半数ヲ得タル者三人ニ滿テサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選舉スヘキ定員ノ倍數ヲ取り決選投票ヲ行ヒ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

ル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 當選人ニシテ當選ヲ辭スル者アルトキハ更ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ

第十條 議長候補者ノ選舉終リタルトキハ副議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ

副議長候補者ノ選舉ハ議長候補者選舉ノ例ニ同シ

第十一條 議長候補者ハ副議長候補者ニ選舉セラレ、コトヲ得

第十二條 選舉ニ付キ疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第十三條 議長副議長ノ候補者定マリタルトキハ書記官長ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第十四條 議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ

書記官長ハ議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長席ニ著カシムヘシ

第十五條 議長ハ議長席ニ著カタルノ後書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ノ議席及部屬ヲ定ム

第十六條 議員ノ議席ハ每會期ニ之ヲ定メ各席ニ號數ヲ付ス

第十七條 議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス

總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第十八條 臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第十九條 各部ハ年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第二十二條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第二十三條 議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

第二十四條 議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ至リ議員總數三分ノ一二充テタルトキハ議席及部屬ヲ定メタル後議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

○帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則

朕帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十月二十三日

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第二百六十三號

帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則

第一條 帝國議會議長副議長及議員ノ歲費ハ毎年七月ヨリ翌年六月ニ至ル十二箇月ヲ以テ一歲トシ計算ス

第二條 議長副議長及議員ノ歲費ハ其ノ前六箇月分ヲ帝國議會通常會開會ノ後三十日以内ニ其ノ後六箇月分ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス

第三條 議長副議長ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス

議長副議長ニ勅任セラレタル議員ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル前月分マテ支給ス

第四條 貴族院勅任議員ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス但シ多額納稅者ノ互選セラレタル者ハ其ノ互選セラレタル當月分ヨリ支給ス

第五條 議長副議長及議員退職職除名ノ場合ニ於テハ其ノ當月分マテヲ支給ス

第六條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議長副議長及議員ノ歲費ハ解散ヲ命セラレタル當月分マテヲ支給ス

憲法附錄 議院法

第七條 衆議院解散ヲ命セラレタル後選舉セラレタル議員及補缺議員ノ歳費ハ其ノ選舉セラレタル當月分ヨリ支給ス

第八條 衆議院ノ議員貴族院ノ議員トナリタルトキ其ノ他如何ナル場合ヲ問ハス歳費ハ同一人ニ對シ重複支給セズ

第九條 官吏ニシテ議員タル者官吏ヲ罷メタルトキハ其ノ當月分ヨリ議員ニシテ官吏ニ任セラレタル者仍議員タルトキハ其ノ當月分マテヲ支給ス

第十條 議長副議長及議員ノ旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス官吏ニシテ議員タル者亦同シ

上京旅費ハ歳費ノ前半額ト歸郷旅費ハ旅費ノ後半額ト同時ニ之ヲ支給ス

第十一條 旅費ハ當選區ノ何地ニ在ルヲ問ハス其ノ住居地ヨリ直路ノ里程ヲ計算シテ之ヲ支給ス

第十二條 議院ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居スル者ハ何地ノ議員タルヲ問ハス旅費ヲ支給セズ

第十三條 汽車旅行ハ一日二百哩詰汽船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰ノ割合ヲ以テ直路ノ行程ニ應シ支給ス但シ一日ノ行程ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第十四條 召集ニ應セサル議員ニハ事故ノ如何ヲ問ハス旅費ヲ支給セズ

旅費表

汽 車 一 哩 三 付	汽 船 一 海 里 三 付	車 馬 一 里 三 付	日 當
拾 錢	拾 錢	參 拾 錢	貳 圓 五 拾 錢

○衆議院議員選舉法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附録ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セラ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼内務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 遞信大臣 伯爵榎本武揚

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一 選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命ジ選舉長タラシムヘシ

第四條 一市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長タラシムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ

納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ職員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章 選舉人名簿

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ選舉資格

ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ
選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉人名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事

憲法附錄 衆議院議員選舉法

ニ送致スヘシ

五十四

第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルトキハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ據置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十二條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用非選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲ

シテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラレヘキ裁判言渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員二名以

憲法附錄 衆議院議員選舉法

上七名以下ヲ定ムヘシ

五十八

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ
- 三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ
- 四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス
- 五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用非又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤

ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用非タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス

此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

憲法附錄 衆議院議員選舉法

五十九

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ヲ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補闕選舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限り臨時選舉ヲ行

ヒ補闕議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧譟ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルハコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十二條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得
其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金二百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ
當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ原本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

憲法附錄 衆議院議員選舉法

第八十九條 納税額年齢住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ

劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各「本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各「本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各「本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第二百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第一百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第一百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ

選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ
立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第一百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ
第一百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第一百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第一百十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ進行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セヌ

○衆議院議員選舉法附錄

東京府	議員總數十二人	第一區	一人	第二區	一人	第三區	一人	第四區	一人	第五區	一人
第一區	麹町區 赤坂區	第二區	芝區	第三區	京橋區	第四區	日本橋區	第五區	本所區 深川區		

憲法附錄 衆議院議員選舉法

憲法附錄 衆議院議員選舉法

區四第 美明八 義石部 郡郡郡	區三第 水多 上紀 郡郡	區二第 有川莞 馬途原 郡郡郡	區一第 神戶 區	兵庫縣 議員總數十二人	區六第 足柄上 下郡	區五第 大久保 井郡	區四第 津久井 郡	區三第 高座 郡	區二第 北多摩 郡	區一第 南多摩 郡
一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
區一第 西長 彼崎 郡區	區十第 三津 原郡	區九第 朝發二 來父方 郡郡郡	區八第 出氣美 石多含 郡郡郡	區七第 城崎 粟用郡	區六第 赤西 郡	區五第 赤西 郡	區四第 神飾 郡	區三第 加多 郡	區二第 加東 郡	區一第 印古 南古 郡郡
二	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
區五第 三古 島志 郡郡	區四第 南浦 原郡	區三第 中浦 原郡	區二第 東浦 原郡	區一第 北浦 原郡	新瀉縣 議員總數十三人	區六第 下縣 郡	區五第 上縣 郡	區四第 南松 浦郡	區三第 石松 郡	區二第 北松 郡
二	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

六十九

區二第 下京 區	區一第 上京 區	區二十第 伊豆 七島 郡	區一十第 南足立 郡	區十第 北南 郡	區九第 東多 郡	區八第 四牛 郡	區七第 小石 川區	區六第 本下 郡	區五第 本下 郡	區四第 本下 郡	區三第 本下 郡	區二第 本下 郡	區一第 本下 郡
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
區四第 住東 吉成 郡郡	區三第 南區	區二第 北東 區	區一第 西區	區六第 能竹中 野野郡	區五第 何天 郡	區四第 北南 郡	區三第 額相 郡	區二第 久宇 郡	區一第 紀伊 郡	區一第 紀伊 郡	區一第 紀伊 郡	區一第 紀伊 郡	區一第 紀伊 郡
二	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
區一第 橫濱 區	區九第 日南 根郡	區八第 泉大 郡	區七第 澁大 川郡	區六第 丹北 郡	區五第 志南 郡	區四第 丹南 郡	區三第 安古 郡	區二第 石上 郡	區一第 高若 郡	區一第 河江 郡	區一第 河江 郡	區一第 河江 郡	區一第 河江 郡
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

六十八

奈良縣 議員總數四人										栃木縣 議員總數五人									
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區一第	區二第	區三第	區四第	區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區一第	區二第	區三第	區四第
添下郡	添上郡	山添郡	山添郡	山添郡	山添郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡	河內郡
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
三重縣 議員總數七人										愛知縣 議員總數十一人									
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區一第	區二第	區三第	區四第
安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡	安志郡
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

埼玉縣 議員總數八人										群馬縣 議員總數五人									
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區一第	區二第	區三第	區四第	區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區一第	區二第	區三第	區四第	區五第
北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡	北足立郡
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
千葉縣 議員總數九人										茨城縣 議員總數八人									
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區一第	區二第	區三第	區四第
千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡	千葉郡
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

憲法附錄 衆議院議員選舉法

宮城縣 議員總數五人									
區二第	區一第	區七第	區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	
宜伊刈柴	宮名仙	下伊那	上伊那	北南	北南	小	下上	更上	
理具田柴	城取登	伊那	伊那	佐久	安安	科	高井	水內	
郡郡郡	郡郡區	郡	郡	郡	郡郡	郡	郡郡	郡	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	
人	人	人	人	人	人	人	人	人	
福島縣 議員總數七人									
區四第	區三第	區二第	區一第	區五第	區四第	區三第			
河耶大北南	石西東	安安	伊信	本牡桃	登栗	遠玉志加			
沼麻沼	川白川	郡郡	郡郡	吉鹿生	米原	田造田美川			
郡郡郡	郡郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡郡			
—	—	—	—	—	—	—			
人	人	人	人	人	人	人			
巖手縣 議員總數五人									
區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	區五第				
東磐西	氣膽江	南西東	北南	北南	宇行標				
磐井郡	仙澤郡	閉伊郡	閉伊郡	閉伊郡	多方				
郡	郡	郡	郡	郡	郡郡郡				
—	—	—	—	—	—				
人	人	人	人	人	人				
青森縣 議員總數四人									
區五第	區四第	區三第	區二第	區一第					
東磐西	氣膽江	南西東	北南	北南					
磐井郡	仙澤郡	閉伊郡	閉伊郡	閉伊郡					
郡	郡	郡	郡	郡					
—	—	—	—	—					
人	人	人	人	人					

七十二

靜岡縣 議員總數八人									
區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	區一第	區十第	區九第	
龜引瀨	磐山豐	城佐	益志	庵富	有安	八渥	寶南	東西	
玉佐名知	田名田	東野	津大	原士	波倍	名美	飯設	加茂	
郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡	郡郡	郡郡	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	
人	人	人	人	人	人	人	人	人	
滋賀縣 議員總數五人									
區四第	區三第	區二第	區一第	區三第	區二第	區一第	區七第		
阪伊東	蒲神愛	粟野甲	高滋	南西	北南	中北	駿田		
田香	生崎知	大洲賀	島賀	巨八	都都	巨巨	東方		
郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡	郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡		
—	—	—	—	—	—	—	—		
人	人	人	人	人	人	人	人		
山梨縣 議員總數三人									
區一第	區二第	區一第	區七第						
中北	都都	巨巨	駿田						
郡郡	郡郡	郡郡	郡郡						
—	—	—	—						
人	人	人	人						
長野縣 議員總數八人									
區七第	區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第			
吉益大	惠土可	郡武	山席本	中羽上	安不	各方			
城田野	那岐兒	上儀	縣田巢	島栗	八破	務縣			
郡郡	郡郡	郡	郡郡郡	郡郡	郡	郡			
—	—	—	—	—	—	—			
人	人	人	人	人	人	人			
岐阜縣 議員總數七人									
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第			
各方	安不	中羽上	山席本	郡武	惠土可	吉益大			
務縣	八破	島栗	縣田巢	上儀	那岐兒	城田野			
郡	郡	郡	郡郡	郡	郡郡	郡			
—	—	—	—	—	—	—			
人	人	人	人	人	人	人			

七十二

島根縣 議員總數六人							
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第
秋鹿郡	邑久郡	能美郡	大田郡	石原郡	雲石郡	出雲郡	安芸郡
鹿角郡	津和野郡	北山郡	山本郡	北山郡	山本郡	北山郡	山本郡
1	2	1	1	1	1	1	1
人	人	人	人	人	人	人	人

廣島縣 議員總數十人							
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第
佐伯郡	安藝郡	下野郡	小月郡	上野郡	川上郡	阿賀郡	真庭郡
佐伯郡	安藝郡	下野郡	小月郡	上野郡	川上郡	阿賀郡	真庭郡
1	2	1	1	1	1	1	1
人	人	人	人	人	人	人	人

山口縣 議員總數七人							
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第
佐波郡	美波郡	高田郡	三田郡	加茂郡	豐田郡	世羅郡	深津郡
佐波郡	美波郡	高田郡	三田郡	加茂郡	豐田郡	世羅郡	深津郡
2	1	1	1	1	1	1	1
人	人	人	人	人	人	人	人

山形縣 議員總數六人							
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第
東津輕郡	北津輕郡	南津輕郡	西津輕郡	東田川郡	西田川郡	東海郡	西海郡
東津輕郡	北津輕郡	南津輕郡	西津輕郡	東田川郡	西田川郡	東海郡	西海郡
2	1	1	1	1	1	1	1
人	人	人	人	人	人	人	人

石川縣 議員總數六人							
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第
石川郡	能登郡	江沼郡	羽咋郡	鹿島郡	河野郡	鹿島郡	河野郡
石川郡	能登郡	江沼郡	羽咋郡	鹿島郡	河野郡	鹿島郡	河野郡
2	1	1	1	1	1	1	1
人	人	人	人	人	人	人	人

富山縣 議員總數五人							
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	區八第
上野郡	新川郡	下新川郡	射水郡	礪波郡	礪波郡	礪波郡	礪波郡
上野郡	新川郡	下新川郡	射水郡	礪波郡	礪波郡	礪波郡	礪波郡
2	1	1	1	1	1	1	1
人	人	人	人	人	人	人	人

鹿兒島縣 議員總數七人	區一第 鹿兒島郡	區二第 川添郡	區三第 阿多郡	區四第 飯盛郡	區五第 始原郡	區六第 南大隅郡	區七第 大島郡
宮崎縣 議員總數三人	區一第 北郷郡	區二第 川添郡	區三第 阿多郡	區四第 飯盛郡	區五第 始原郡	區六第 南大隅郡	區七第 大島郡
一 人	一 人	一 人	一 人	一 人	一 人	一 人	一 人

七十八

○衆議院議員選舉法施行規則

朕衆議院議員選舉法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年一月九日

內務大臣 伯喬山縣有朋

勅令第三號

衆議院議員選舉法施行規則

第一條 選舉人ノ年齢ハ選舉期日(七月一日)ノ前滿二十五歳ニ達スルヲ以テ合格トス

第二條 選舉法第六條第二ニ掲クル住居ノ期限内ニ選舉人其ノ住居ヲ府縣外ニ移シ再ヒ其ノ本籍府縣ニ歸住シタルトキハ時日ノ長短ニ拘ラス其ノ期限中斷シタルモノトス但シ旅行中ノ滞在ハ中斷スルノ限ニ在ラス

第三條 選舉人及被選人ノ納稅資格ハ地租ニ付テハ選舉人名簿調製期日(四月一日)ノ前滿一年以上十五圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及納ムル者ヲ以テ合格トシ所得稅ニ付テハ選舉人名簿調製期日ノ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ヲ以テ合格トス

賣買讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其ノ所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ日ニ依ルヘシ
滿三年以上所得稅ヲ納メ及滿一年以上地租ヲ納ムル者其ノ地租及所得稅ヲ併セ十五圓以上ニ及フトキハ納稅資格ヲ有スルモノトス但シ所得稅ヲ納ムル者毎年ノ納額ニ差異アルトキハ其ノ最少額ヲ以テ地租ニ併算スヘシ

第四條 質入地ノ地租ハ其ノ地主ノ納稅資格ニ算入スヘシ

第五條 數人共有地ノ地租ハ之ヲ平分シ各箇ノ納稅資格ニ算入ス但シ土地臺帳又ハ附屬帳簿ニ所有權又ハ納稅負擔ノ割合ヲ記入シタルモノハ各其ノ割合ニ依ルヘシ

第六條 被選人ノ年齢ハ選舉期日ノ前滿三十歳ニ達スルヲ以テ合格トス
被選人家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ノ納稅資格ハ選舉法第七條ニ規定シタル選舉人ノ

憲法附錄 衆議院議員選舉法

七十九

例ニ同シ

第七條 警視廳ノ官吏ハ選舉法第十條ノ例ニ依リ東京府内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第八條 郡市ヲ合セ又ハ二郡以上ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉ノ管理ニ關係スル郡ノ官吏ハ選舉法第十一條ニ規定シタル市町村吏員ノ例ニ依リ其ノ選舉區内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第九條 選舉法第十二條ニ掲ケタル神宮トハ神社ニ奉祀スルヲ職トスル者、僧侶及教師トハ教規若ハ宗制ニ從ヒ其ノ分限ヲ有スル者其ノ他何等ノ宗教ヲ問ハス宣教ニ從事スル者ヲ謂フ

第十條 組合町村ニシテ一ノ町村役場ヲ置クトキハ其ノ組合町村ヲ以テ一投票區域トス

選舉法第十九條第一ノ場合ニ於テ一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタルトキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス

選舉法第十九條第二ノ場合ニ於テ市内ニ在ル數區ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルトキハ其ノ選舉區ヲ以テ一投票區域トス

選舉法第十九條第三ノ場合ニ於テ郡市ヲ合セテ一選舉區ト爲シタルトキハ郡ハ町村ヲ以テ一投票區域トシ市ハ其ノ市ヲ以テ一投票區域トス

第十一條 選舉人名簿ニハ選舉人ヲ其ノ姓ノ伊呂波順ニ記載シ番號ヲ付スヘシ

第十二條 選舉人正當ノ事故ニ依リ選舉法第二十條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ選舉人名

簿ニ登載セラレサルトキハ其ノ第二十三條ノ例ニ依リ脱漏ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十三條 選舉長ノ判定ニ對スル出訴若ハ始審裁判所ノ判決ニ對スル上告ノ爲ニ其ノ判定又ハ判決ノ執行ヲ停止セス

第十四條 選舉人名簿確定ノ後選舉人其ノ投票區域外ニ轉住シタルトキハ前住地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第十五條 投票ヲ始ムル時刻ニ至リ立會人參會セサルトキハ投票所管理者ハ參會シタル選舉人中ヨリ更ニ立會人ヲ指定スヘシ

第十六條 投票所管理者ハ投票所入場券ヲ製シ遅クトモ投票期日ノ五日前ニ之ヲ各選舉人ニ配付スヘシ

入場券ノ配付ヲ受ケサル選舉人ハ之ヲ請求スルコトヲ得

此ノ規則第十四條ニ依リ投票ヲ爲サントスル者ハ前項ノ例ニ依リ入場券ヲ請求スルコトヲ得

入場券ニハ選舉人ノ住所姓名選舉人名簿ニ記載シタル番號及投票ノ場所日時ヲ記載スヘシ

第十七條 選舉人投票所ニ入ルトキハ入場券ヲ受付掛ニ差出スヘシ選舉人多數ナル投票所ニ於テハ必要ナルトキハ到著番號札ヲ受取ラシムヘシ

第十八條 選舉人入場券ヲ紛失シタルトキハ其ノ由ヲ受付掛ニ申立テ投票所管理者ノ承認

ヲ得テ入場スルコトヲ得

第十九條 投票所管理者ハ選舉人ヲ呼出シ其ノ住所姓名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ對照シ投票用紙ヲ交付スヘシ若到著番號札ヲ受取ラシメタル場合ニ於テハ到著番號ノ順序ニ從ヒ番號札ト引換ニ投票用紙ヲ交付スヘシ

第二十條 選舉人誤テ投票用紙ヲ汚染シタルトキハ更ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 投票ハ投票所管理者及立會人ノ面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ投票函ニ投入シ順次投票所ヨリ退出スヘシ

第二十二條 投票終ルノ時刻ニ至リタルトキハ投票所管理者ハ其ノ由ヲ宣告シ一時入口ヲ閉鎖セシメ參會シタル選舉人中未投票セサル者アルトキハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第二十三條 選舉長ハ各投票所ノ投票函總テ到達シタル翌日選舉法第四十八條ノ手續ヲ爲シ逐次投票ヲ開披點檢シテ選舉委員ニ付シ每票先ツ選舉人ノ姓名次ニ被選人ノ姓名ヲ朗讀セシメ書記二名以上ヲシテ被選人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉長ハ各被選人ノ得點總數ヲ朗讀スヘシ
第二十五條 點檢濟ノ投票ハ其ノ有効無効ヲ區別シテ封緘シ選舉長ハ選舉委員ト共ニ之ニ捺印スヘシ
連名投票ニシテ其ノ一部無効ナルモノハ無効投票ト共ニ保存スヘシ

第二十六條 天災若ハ其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ投票ヲ行フコトヲ得ヌ又ハ選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ投票所管理者又ハ選舉長ハ其ノ施行ヲ止メ府縣知事ニ其ノ由ヲ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ期日ヲ定メ更ニ投票ヲ行ハシメ又ハ選舉會ヲ開カシムヘシ但シ其ノ期日ハ遅クトモ五日以前ニ投票區域内又ハ選舉區内ニ告示セシムヘシ

第二十七條 選舉法第五十八條第二項ノ場合ニ於テ生年月ノ差ニ依テ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ第六十三條ノ期限内ニ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ生年月ノ差ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第二十八條 選舉法第六十三條ニ掲ケタル届出ノ期限ハ第六十條ニ依リ當選人ノ姓名ヲ告示シタル日ヨリ起算スヘシ

第二十九條 選舉法第五十二條ノ選舉長ノ決定ニ對シ異議アル者又ハ第七十六條ノ投票所管理者ノ決定ニ對シ不服ナル者ハ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ選舉法第二十六條ノ例ニ依ル

第三十條 選舉長及投票所管理者故障アルトキハ其ノ附屬ノ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

○衆議院議員選舉法罰則補則
朕衆議院議員選舉法罰則補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

憲法附錄 衆議院議員選舉法

明治二十三年五月二十九日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋
內務大臣 伯爵西鄉從道
司法大臣 伯爵山田顯義

八十四

法律第四十號

衆議院議員選舉法罰則補則

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辦シ又ハ代辦スルコトヲ約束シ及其代辦又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ撈引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐偽ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意

ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第四百條ノ例ニ依ル

○衆議院議員選舉法及施行規則
ニ於ル事務書式等準據取扱方

(內務省訓令第二號)
明治廿三年一月十七日

府 縣 沖繩縣
ヲ除ク

衆議院議員選舉法及選舉法施行規則ニ就テハ其事務及書式等左ノ各條ニ準據シ取扱フヘシ
第一條 衆議院議員選舉法第十八條ノ選舉人名簿ハ別紙第一號ノ式ニ依リ調製スヘシ
第二條 投票所管理者ハ遅クトモ投票期日ノ五日前ニ投票所ヲ指定シ之ヲ其投票區域内ニ公告スヘシ

第三條 投票所管理者ハ選舉法第三十三條ニ依リ立會人ヲ定メ之ヲ本人ニ通知スルトキハ

憲法附錄 衆議院議員選舉法

八十五

其指定シタル立會人ノ内若シ正當ノ事故ニ由リテ其職ヲ辭スル者アルモ仍ホ投票期日ノ三日前更ニ立會人ヲ指名スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存シテ之ヲ通知スヘシ但臨時已ムヲ得サル事故ニ由リ投票期日ノ一兩日前ニ至リ其職ヲ辭スル者アルトキハ選舉法施行規則第十五條ニ依リ投票ノ當日投票所ニ參會シタル選舉人中ヨリ之ヲ指名スヘシト雖投票所管理理者ハ豫メ其當日指名セントスル者ヲ定メ前以テ之ヲ其本人ニ通牒シ置キ投票ヲ始ムル前ニ參會セシメ臨時指名スルニ差支ナカラシムルヲ要ス

第四條 投票用紙、投票函、入場券、及到著番號札ハ別紙第二號第三號第四號ノ式ニ依ルヘシ

第五條 投票所ハ寺院若クハ學校等ノ如キ可成門戸アル場所ヲ以テ投票所ニ充ツヘシ

第六條 投票所ノ開閉ハ鑿柝又ハ鐘鼓ヲ以テ之ヲ報スヘシ

投票所ハ午前六時三十分ニ其門戸ヲ開キ午後六時ニ之ヲ閉ツヘシ

第七條 投票所ハ別紙第五號甲乙ノ式ヲ標準トシ選舉人員ノ多少ニ依テ適宜之ヲ斟酌シ受付所、選舉人扣所、投票用紙交付所、投票記載所、投票ノ場所等ヲ區別シ之ヲ設クヘシ

第八條 午前七時ニ於テ投票所管理者ハ參會シタル選舉人ヲ投票用紙交付所ノ入口ニ招集シ選舉法第三十六條ニ依リ立會人ト共ニ投票函ノ空虛ナルコトヲ選舉人ニ示シ且選舉人ノ面前ニ於テ其第一蓋ノ錠ヲ卸シ之ヲ投票所管理者及立會人列席ノ卓上ニ置キタル後到著番號ノ順序ニ依リ適宜選舉人數名ツ、ヲ呼出シ投票用紙交付所ニ入ラシメ選舉法施行規則第十九條ノ手續ヲ爲シ投票用紙ヲ交付スヘシ

第九條 選舉人ニ投票用紙ヲ交付シタルトキハ投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニ於テ記載セシメ直ニ投票ヲ爲サシムヘシ
投票記載ノ爲ニ設ケタル卓上ニハ呼入レタル各選舉人遲滯ナク記載シ得ル丈ニ數箇ノ筆

視墨ヲ備ヘ置クヘシ

第十條 選舉人出入ノ門戸及投票所出入口等ハ警察官吏又ハ特ニ設ケタル取締人ニ於テ取締ヲ爲スヘシ

第十一條 投票函ヲ閉鎖スルトキハ直ニ其第二蓋ノ錠ヲ卸シ其第一蓋ノ錠ハ立會人ニ於テ保管シ第二蓋ノ錠ハ投票所管理者之ヲ保管スヘシ

第十二條 投票明細書ハ別紙第六號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

第十三條 選舉法施行規則第二十三條ニ依リ被選人ノ得點ヲ記入スヘキ點數簿ハ別紙第七號ノ式ニ依リ之ヲ調製シ其記入毎ニ之ヲ記入スル書記ノ一人其被選人ノ點數ヲ呼フヘシ

第十四條 選舉明細書ハ別紙第八號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

選舉明細書ハ副本ヲ製シ選舉人又ハ被選人ノ請求アリタルトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

第十五條 選舉法第六十五條ニ依リ府縣知事ヨリ當選人ニ付與スヘキ當選證書ハ別紙第九號ノ式ニ依ルヘシ

第十六條 投票所ハ何郡(市區)何町村投票所ト記シ選舉會場ハ衆議院議員第何區選舉會場ト記シ各其門戸ニ之ヲ掲クヘシ

書式ハ別ニ頒ツ(書式略ス)

○衆議院議員選舉法第九條第十條(關令第十八號
ニ記載シタル官吏ニ關スルノ件(二十二年六月四日))

府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議院議員選舉法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノミニ限ルモノトス

非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

○府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員選舉區域等ニ關スル件

朕府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員立府縣會議員ノ選舉區域地方稅收支豫算地方稅財產備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣ノ急施事業ニ關スル諸件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月十九日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋
內務大臣 伯爵西鄉從道

法律第八十五號(抄寫)

第一條 郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ衆議院議員ノ選舉ハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

○衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目

朕衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

シム

御名 御璽

明治廿二年三月二十六日

內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
內務大臣 伯爵松方正義
大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第四十一號

衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノ左ノ如シ

地租

所得稅

○貴族院令

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕ガ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣 伯爵黑田清隆

憲法附錄 貴族院令

樞密院議長 伯爵伊藤博文
 外務大臣 伯爵大隈重信
 海軍大臣 伯爵西鄉從道
 農商務大臣 伯爵井上馨
 司法大臣 伯爵山田顯義
 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
 陸軍大臣 伯爵大山巖
 文部大臣 伯爵森有禮
 遞信大臣 伯爵榎本武揚

勅令第十一號

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

- 一 皇族
- 二 公侯爵
- 三 伯子男爵各其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿三十五歲ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歲ニ達シ各其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歲以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院憲法附錄 貴族院令

ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ
除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラレヘシ

被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ
第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

○貴族院伯子男爵議員選舉規則

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院伯子男爵議員選舉規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

明治二十二年六月四日

内閣總理大臣 伯爵黑田清隆

勅令第七十八號

貴族院伯子男爵議員選舉規則

第一條 伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選舉ス

第二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條 貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選舉ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第六條 爵位局長官ハ選舉ノ期日ヨリ五十日前ニ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ各別ニ調製シ選舉資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ二十日前ニ之ヲ確定シテ各選舉管理者ニ交付スヘシ

第七條 選定期日ノ前ニ於テ新ニ資格ヲ得及回復シタル者アルトキハ之ヲ名簿ニ記入スヘシ
第七條 選舉ハ伯子男爵ノ選舉資格ヲ有スル者ヨリ各一人ノ選舉管理者ヲ互選シテ之ヲ管理セシム

選舉管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ
選舉管理者ハ選舉及被選ノ權ヲ妨ケラル、コトナシ

第八條 各選舉管理者ハ選舉人ノ中ヨリ各其ノ同爵ノ選舉立會人三八以上ヲ指定シテ選

舉會場ニ參會セシムヘシ

九十四

第九條 選舉ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第十條 選舉人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ

第十一條 選舉人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ同爵中ノ他ノ選舉人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證狀ト共ニ委託ヲ受クル者ニ送付スヘシ

第十二條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條 前數條ニ掲ケタル者ノ外選舉ニ關ル一切ノ規程ハ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條 當選人確定シタルトキハ選舉管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ

第十五條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第十六條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

補闕選舉ヲ行フノ手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第十七條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十八條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以内トス

第十九條 選舉ニ關ル費用ハ同爵者ノ支辨タルヘシ

○貴族院多額納稅者議員互選規則

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽

明治二十二年六月四日

内閣總理大臣 伯爵黑田清隆

勅令第七十九號

貴族院多額納稅者議員互選規則

第一條 貴族院令第六條ニ依リ貴族院議員ヲ互選スル者ハ互選名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ

第二條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其財産ニ付前財産主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資

憲法附錄 貴族院令

九十五

格ニ算入ス

第三條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ互選人タルコトヲ得ス

第四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ互選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

三 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

四 舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 衆議院議員ノ選舉ニ關ル犯罪ニ依リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第五條 陸海軍軍人ハ現役中互選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第六條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ互選人タルコトヲ得ス

第七條 互選人選舉ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ互選名簿ヨリ除名セララルヘシ

第八條 府縣知事ハ選舉ヲ行フノ年四月一日ヲ期トシ其ノ府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者

十五人ノ名簿ヲ調製スヘシ

互選名簿ハ互選人ノ姓名、職業、身分、住所、生年月、土地或ハ工業商業ニ付納ムル所ノ直接國

稅ノ細別及總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第九條 納稅同額ノ者アルトキハ生年月ノ長者ヲ先ニシ同年月ノ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

ヘシ

第十條 府縣知事ハ四月二十日マテニ互選名簿ヲ各互選人ニ配付シ併セテ之ヲ管内ニ告示

スヘシ

第十一條 互選資格ヲ得ヘキ者ニシテ自ラ互選名簿ニ記載セラレサルコトヲ發見シタルト

キハ告示ノ後十五日以内ニ其ノ理由書及證據ヲ具ヘテ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

凡テ互選資格ヲ得タル者ハ互選資格ヲ得ヘカラサル者ノ互選名簿ニ記載セラレタルコト

ヲ發見シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ改正ヲ求ムルコトヲ得

期限ヲ經過シタル後申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第十二條 府縣知事前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ之ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ判定ス

ヘシ判定ノ結果ニ依リ名簿ヲ改正シタルトキハ其ノ由ヲ關係人ニ通知シ併セテ管内ニ告

示スヘシ

第十三條 互選名簿ハ六月一日ヲ以テ確定期限トス

第十四條 選舉ハ六月十日府縣廳ニ於テ之ヲ行ヒ府縣知事又ハ其ノ代理者之ヲ管理ス

第十五條 府縣知事ハ投票ノ時刻ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ七日前ニ各互選人ニ通知

書ヲ發スヘシ

第十六條 互選人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名ヲ記載スヘシ

第十七條 互選人疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書又ハ事由書ヲ具ヘ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シテ之ヲ他ノ互選人ニ委託スルコトヲ得

第十八條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢シ其ノ結果ヲ告知スヘシ但シ當選人其ノ場ニ在ラサルトキハ文書ヲ以テ速ニ其ノ由ヲ本人ニ通知スヘシ

第十九條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉管理者之ヲ決定ス

第二十條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定

ムヘシ

第二十一條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭スルトキハ次ノ投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トスヘシ

當選人當選ヲ辭スルコトヲ得ルハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第二十二條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選人ノ資格及選舉ノ顛末ヲ録シテ内閣

總理大臣ニ報告スヘシ

第二十三條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ署名捺印シ其

ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第二十四條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フ

ヘキコトヲ其ノ府縣ニ命スヘシ

補闕選舉ヲ行フノ時期及手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第二十五條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第二十六條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ開會ノ後十日以内トス

○貴族院令並伯子男爵及ヒ多額納稅者議員選舉規則施行ノ詔勅

朕嚮ニ公布セシムル所ノ貴族院令並ニ貴族院伯子男爵議員選舉規則及貴族院多額納稅者議員互選規則ヲ本年ヨリ施行スルコトヲ命ス但シ未タ一般ノ地方制度ヲ準行セサル北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ仍貴族院多額納稅者議員互選規則施行ノ効力ヲ及ボサス
貴族院令第四條ニ依リ伯子男爵ハ本年ノ選舉期ニ於テ各左ノ員數ヲ選舉スヘシ

伯爵 十五人

子爵 七十八人

男爵 二十人

御名 御璽

明治二十三年二月二十七日

内閣總理大臣兼內務大臣伯爵山縣有朋

○貴族院議員資格及ヒ選舉爭訟判決規則

朕貴族院開會ノ始ニ於テ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決スルノ緊急ニ屬シ而シテ時ニ及テ自ラ其ノ規則ヲ定ムルノ困難ナルヲ顧念シ茲ニ勅令ニ由リ貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則

憲法附錄 貴族院令

則ヲ公布セシム此ノ勅令ハ貴族院ニ於テ規則ヲ制定シテ更ニ裁可ヲ經ルマテノ間効力ヲ有スヘシ

御名 御璽

明治二十三年十月十日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
内務大臣 伯爵西鄉從道
司法大臣 伯爵山田顯義
大藏大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 伯爵大山 巖
逓信大臣 伯爵後藤象二郎
外務大臣 子爵青木周藏
海軍大臣 子爵樺山資紀
文部大臣 芳川顯正
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第二百二十一號

貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則

第一條 貴族院ハ每會期ノ始ニ於テ貴族院議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ審査スル爲ニ常任委員ヲ選舉スヘシ

第二條 伯子男爵議員ノ各選舉人又ハ多額納稅者議員ノ互選人貴族院令第九條ニ依リ出訴スル者ハ當選議員ヲ被告トスヘシ

第三條 原告人ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作り之ヲ議長ニ差出スヘシ議長訴狀ヲ受取リタルトキハ之ヲ資格審査委員ニ付ス

第四條 訴狀ニハ請求ノ要領理由及立證ヲ具ヘ原告人自ラ署名スヘシ

第五條 資格審査委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告人ニ送達シ期日ヲ定メ被告人ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ

第六條 原告被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ期限ニ算入セス委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第七條 資格審査委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選舉ニ關ル證憑文書ヲ政府ニ要求スルコトヲ得

第八條 審査ノ結果ニ因リ刑法ニ觸ルハノ事件ヲ發見シタルトキハ議長ヨリ之ヲ司法大臣ニ通告スヘシ但シ之カ爲ニ審査及判決ヲ中止セス

第九條 被告人期日內ニ答辯書ヲ差出サハルトキハ資格審査委員ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

天災事變ニ因リ期日內ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スル者アルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ差出サシムルコトヲ得

第十條 資格審査委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第十一條 議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事録ニ依リ議決ノ際本ヲ作ラシメ之ヲ原告被告ニ送達スヘシ

議院ノ判決ハ理由ヲ付セス

第十二條 貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不法ト判決シタルトキハ議長ハ其ノ位列ヲ停止シテ奏上スヘシ

第十三條 被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クルマテ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自己ニ關ル争訟ニ付テハ自己又ハ他ノ議員ニ託シ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

被告議員ハ自己ニ關ル争訟ニ付テハ委員會ニ參スルコトヲ得ス

第十四條 補闕議員ノ選舉開院中ニ在ルトキハ伯子男爵ニ在テハ當選確定ノ後多額納稅者ニ在テハ勅任セラレタル後十日ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ仍次會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ第三條第四條第五條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ノ例ニ依リ審査及判決スヘシ但シ此ノ場合

ニ於テハ貴族院伯子男爵議員選舉規則第十八條及貴族院多額納稅者議員互選規則第二十六條ニ掲ケタル期限ノ限ニ在ラス

○貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方

(内務省訓令第七號 二十三年三月十日)

府 縣 沖繩縣ヲ除ク

明治二十二年六月勅令第七十九號貴族院多額納稅者議員互選規則取扱方左之通心得ラルヘシ

第一條 貴族院令第六條ニ滿三十歳トアルハ其選舉期日(六月十日)前滿三十歳ニ達スル者ヲ指ス

第二條 互選規則第一條ニ其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居トアルハ衆議院議員選舉法施行規則第二條ノ例ニ異ナラス

第三條 互選規則第一條ニ多額ノ直接國稅トアルハ地租及土地又ハ工業商業ノ利益ヨリ生スル所得納稅額而已ヲ合算シテ名簿調製ノ期日(四月一日)前滿一年以上多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ納ムルモノヲ云

第四條 賣買讓與ニ依リ土地所有權移轉ノ場合ニ於テ其所有ノ年限及質入地ノ地租及數人共有ノ土地ヨリ納ムル地租ノ計算方及互選規則第三條ニ神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師トアルハ凡テ衆議院議員選舉法施行規則第三條第二項及同則第四條第五條第九條ノ例ニ異ナラス

第五條 貴族院令第六條ニ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者トアル中ニハ華族(公侯爵ヲ除ク)ノ當主ヲモ包含ス

第六條 貴族院令第六條ニ云フ其選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其任期中納稅額ノ減スルコ

トアルモ同令第十條ノ場合ニアラサレハ其議員ノ資格ヲ失ハサルハ勿論ナリトス
第七條 互選ニ關スル費用ハ府縣廳費ノ支辨ニ屬ス

○會計法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
樞密院議長 伯爵伊藤博文
外務大臣 伯爵大隈重信
海軍大臣 伯爵西郷從道
農商務大臣 伯爵井上馨
司法大臣 伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 伯爵大山巖
文部大臣 伯爵森有禮

遞信大臣 子爵榎本武揚

法律第四號

會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月二十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

憲法附錄 會計法

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其ノ他ノ歲入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歲入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ

別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用非左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

憲法附録 會計法

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ

特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

憲法附錄 會計法

- 第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ
- 第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ
- 第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ
- 第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
- 第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ
- 第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合
- 第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ
- 第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ
- 第九 軍艦ヲ買入ル、トキ
- 第十 軍馬ヲ買入ル、トキ
- 第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ
- 第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル救育所ノ貧民ヲ僱役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ
- 第十三 囚徒ヲ僱役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ
- 第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ

製造物品ヲ賣拂フトキ

- 第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得、
- 第九章 出納官吏
- 第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ
- 第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス
- 第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼タルコトヲ得ス

第十章 雜則

- 第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得、特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得
- 第十一章 附則
- 第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其

ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○會計法補則

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二日

- 內閣總理大臣 伯爵山縣有朋
- 內務大臣 伯爵西鄉從道
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 遞信大臣 伯爵後藤象二郎
- 外務大臣 子爵青木周藏
- 海軍大臣 子爵樺山資紀
- 文部大臣 芳川顯正
- 農商務大臣 陸奥宗光

法律第五十七號

會計法補則

第一條 明治二十三年度歲出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大權ニ基ケル既定ノ歲出トス

- 一 文武官ノ俸給及文官退官賜金
- 二 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費
- 三 賞勳年金及褒賞費
- 四 外國條約及約束ニ依レル支出
- 五 各廳ノ廳費及經常修繕費

第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

- 一 帝國議會經費
- 二 裁判所並會計検査院經費
- 三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手当
- 四 徵兵費
- 五 徵稅費 證券印紙切手類製造買戻押印費鑑札製造費所得稅調查委員手當市町村ニ交付スル徵稅費滯納處分費差押物件買上代
- 六 囚徒費
- 七 遞信事業及航路標識費
- 八 内外國難破船費
- 九 沖繩縣及小笠原島地方費

憲法附錄 會計法

- 十 備荒儲蓄
 - 十一 北海道拂下土地買上代
 - 十二 恩賞及救助費
- 第三條 明治二十四年度歳出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政
府歳出上ノ義務トス
- 一 神社費
 - 二 公債償還利子及拂手數料
 - 三 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費
聯帶支辨金
 - 四 沖繩縣諸祿
 - 五 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ
補助又ハ利子保證
 - 六 雇外國人ノ俸給恩給及手當
 - 七 法律上ノ賠償及訴訟費
 - 八 諸拂戻金
 - 九 國庫金取扱費
 - 十 預金利子

十一 既約アル地所家屋借料

第四條 明治二十三年度以前ノ歳出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度
ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

○裁判所構成法

朕裁判所構成法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治
二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年二月八日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第六號

裁判所構成法目次

- 第一編 裁判所及檢事局
- 第一章 總則
- 第二章 區裁判所
- 第三章 地方裁判所

憲法附録 裁判所構成法

第四章 控訴院
第五章 大審院

第二編 裁判所及檢事局ノ官吏

第一章 判事又ハ檢事ニ任セラル、ニ必要ナル準備及資格

第二章 判事

第三章 檢事

第四章 裁判所書記

第五章 執達吏

第六章 廷丁

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

第二章 裁判所ノ用語

第三章 裁判ノ評議及言渡

第四章 裁判所及檢事局ノ事務章程

第五章 司法年度及休暇

第六章 法律上ノ共助

第四編 司法行政ノ職務及監督權

裁判所構成法

第一編 裁判所及檢事局

第一章 總則

第一條 左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一 區裁判所

第二 地方裁判所

第三 控訴院

第四 大審院

第二條 通常裁判所ニ於テハ民事刑事事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク

第六條 各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルルヤヲ監視シ又民事ニ於テ

憲法附錄 裁判所構成法

モ必用ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ

檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ

檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條 檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第八條 各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記錄其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限り別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得但シ合議裁判所ノ檢事局ニ限ル

司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲特別官吏ヲ裁判所ニ置クコトヲ得

第九條 區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

第十條 法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一 權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二 裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三 法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四 二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章 區裁判所

第十一條 區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其功カヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ

行政事務ヲ委任ス

第十二條 事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此限ニ在ラス

第十三條 區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス
一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同シク毎年前以テ之ヲ定ム

第十四條 區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル

第一 百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求

第二 價額ニ拘ラス左ノ訴訟

(イ) 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

(ロ) 不動産ノ經界ノミニ關ル訴訟

(ハ) 占有ノミニ關ル訴訟

(ニ) 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

(ホ) 左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

(一) 送料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

(二) 旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

第十五條 區裁判所ハ非訟事件ニ付法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第一 未成年者瘋癲者白癡者失踪者其ノ他法律若ハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事

第二 不動産及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事

第三 商業登記及特許局ニ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事

第十六條 區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 違警罪

第二 本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

第三 刑法第二編第一章ヲ除キ其ノ他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若

ハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若ハ其ノ支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

前項ノ手續ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セストノ言渡ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受シムル爲適當ノ手續ヲ爲ス

第十七條 前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章 地方裁判所

第十九條 地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第二十條 各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第二十一條 司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條 各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年以前以テ之ヲ定ム

前二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可非同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

第二十三條 或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若ハ休暇ノ始ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條 第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ休暇中ヲ

除キ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ變更セス
裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中共ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十七條 地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限並ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十八條 地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

第二十九條 地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第三十條 地方裁判所ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條 司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用井ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選川スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス
司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス
司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條 各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章 控訴院

第三十四條 控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第三十五條 各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第三十六條 事務ノ分配及終了並ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一 前項ニ掲ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二 控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用非ルコトヲ得ス

第三十七條 控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三 地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十八條 皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第三十九條 控訴院ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第四十條 控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立タル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十一條 第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ五人又ハ七人

ノ判事一人ヲ裁判長トス

第四十二條 各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長並ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第五章 大審院

第四十三條 大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ置ク

第四十四條 大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四十五條 大審院ノ事務ノ分配並ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ

大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十六條 大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得

トヲ得

第四十七條 大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條 大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

第四十九條 大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ

大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 終審トシテ

(イ) 第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判決ニ對スル上告

(ロ) 控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更

憲法附録 裁判所構成法

百二十九

ニ重キ刑ニ處スヘキモノ、豫審及裁判

第五十一條 前條第二ニ掲ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲テ控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半数ニ滿ツルコトヲ得ス

第五十二條 大審院ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條 大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十四條 第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事申官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

第五十五條 大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシム

ルコトヲ得

第五十六條 大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長並ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第二編 裁判所及檢事局ノ官吏

第一章 判事又檢事ニ任セラル、ニ必要ナル準備及資格

第五十七條 判事又ハ檢事ニ任セラル、ニハ第六十五條ニ掲ケタル場合ヲ除キ二回ノ競争試験ヲ經ルコトヲ要ス

第五十八條 志願者前條ノ競争試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験ニ關ル細則ハ判事檢事登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回試験ニ及第シタル者ハ第二回試験ヲ受クルノ前試補トシテ裁判所及檢事局ニ於テ三年間實地修習ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ修習ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第五十九條 司法大臣ハ試補ノ行狀罷免スルニ足レリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得此ノ罷免ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第六十條 一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱

憲法附録 裁判所構成法

ハシムルコトヲ得

第六十一條 試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一 訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス裁判ヲ爲ス事

第二 證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三 登記ヲ爲ス事

第六十二條 第二回ノ競争試験ニ及第シタル試補ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得

第六十三條 新任ノ判事又ハ檢事ハ關位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ關位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ裁判所ノ檢事局ニ用ウ

第六十四條 區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用非ラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ従事スルコトヲ得且通常代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時關位アル間ハ此ノ法律ノ範圍内ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タスコトヲ得

第六十五條 三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル試験ヲ經ス

シテ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得

帝國大學法科卒業生ハ第一回試験ヲ經スシテ試補ヲ命セラル、コトヲ得

第六十六條 左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得ス

第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第二章 判事

第六十七條 判事ハ勅任又ハ奏任トシ其ノ任官ヲ終身トス

第六十八條 大審院長ハ勅任判事ノ中ヨリ天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條 五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラル、コトヲ得ス

第七十條 十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラル、コトヲ得ス

第七十一條 第六十九條及第七十條ニ掲ケタル年限ヲ算フルニハ補職ノ時マテ各、其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

第七十二條 判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一 公然政事ニ關係スル事

第二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三 俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四 商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十二條 第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラル、コトナシ但シ豫備判事タルキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラル、ハ此ノ限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴訟ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係アルコトナシ

第七十四條 判事身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第七十五條 法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スヘキ關位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ關位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

第七十六條 判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十七條 判事ハ退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受ク

第七十八條 判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴訟ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ラス引續キ之ヲ給ス

第三章 檢事

第七十九條 檢事ハ勅任又ハ奏任トス

第七十六條及第七十七條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

檢事總長及檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ檢事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十條 檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

第八十一條 檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干涉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十二條 檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

第八十三條 檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域内ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍内ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域内ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第八十四條 司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域内ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及内務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域内ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

第四章 裁判所書記

第八十五條 裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

第八十六條 地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス
監督書記及書記長ハ各其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

第八十七條 書記其ノ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ依リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

第八十八條 書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス
書記長ハ奏任トス

書記長ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス
第八十九條 書記ニ任セラルハニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試験ヲ經ルコトヲ要ス

志願者前項ノ試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験及試験ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十條 書記ニ任セラレタル者關位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス
豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セラルハコトヲ得

第九十一條 書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ
書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記録ノ調製若ハ變更ニ關ル場合ニ於テ其ノ調製若ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコトヲ得

前四項ニ掲ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十二條 合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修習中ノ試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス
第九十三條 豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五章 執達吏

第九十四條 各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九十五條 執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其ノ管轄區域内
憲法附錄 裁判所構成法

ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラル、ニ必要ナル資格並ニ試験ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十六條 執達吏ハ手數料ヲ受ク其ノ手數料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

第九十七條 執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ

第九十八條 裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲サ、ル場合ニ限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前二項ニ掲ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條 執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス執達吏ノ職務細則並ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第一百條 執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章 廷丁

第一百一條 廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

第一百二條 廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ

取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用非ルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲廷丁ヲ用非ルコトヲ得

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

第一百三條 開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第一百四條 訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ職務スル判事ニモ亦屬ス

第一百五條 裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第一百六條 裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第一百七條 裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得

其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記録ニ記入ス

第八八條 開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第九九條 裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ掲ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十條 前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一 裁判所ハ閉廷ヲ待タズシテ本條ノ違犯者ヲ速時ニ罰スルコトヲ得

第二 違犯者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第十一條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用非ル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十二條 裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲メ第九條第十條及第十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ

得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以内ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第十三條 第九九條第十條第十一條及第十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第十四條 判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章 裁判所ノ用語

第十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用非ルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

第十六條 通事ノ任命及使用並ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之

其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記録ニ記入ス

第八條 開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第九條 裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ掲ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十條 前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一 裁判所ハ閉廷ヲ待タズシテ本條ノ違犯者ヲ速時ニ罰スルコトヲ得

第二 違犯者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第十一條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用井辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十二條 裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲メ第九條第十條及第十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ

得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以内ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第十三條 第九條第十條第十一條及第十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第十四條 判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章 裁判所ノ用語

第十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用井ルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

第十六條 通事ノ任命及使用並ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之

ヲ定ム

第百十七條 通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用非ラル、コトヲ得

第百十八條 外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記録ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章 裁判ノ評議及言渡

第百十九條 合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

第百二十條 四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第百二十一條 判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及候補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末竝ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第百二十二條 評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第百二十三條 裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付判事ノ意見三説以上ニ分レ其ノ説各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三説以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第百二十四條 判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章 裁判所及檢事局ノ事務章程

第百二十五條 裁判所及檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及檢事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域内ノ裁判所及檢事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及檢事局ノ開廳時間及開廷ノ時日ニ付訓令ヲ發ス

大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章 司法年度及休暇

第百二十六條 司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第百二十七條 裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハル

第百二十八條 休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ著手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ著手セス

第一 爲執手形若ハ約束手形其ノ他ノ流通證書ニ關ル請求

憲法附錄 裁判所構成法

第二 船舶又ハ運送貨又ハ積荷ニ對スル請求

第三 財産差押事件

第四 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第五 養料ノ請求

第六 保證ヲ出サシムルノ請求

第七 取掛リタル建築ノ繼續ニ關ル事件

第八 前數項ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ休暇部若ハ休暇部長ニ於テ直ニ著手スヘキ緊急ノモノト認メタル請求若ハ事件

第二百二十九條 休暇中ニ拘ラス刑事訴訟非訟事件判決執行破産事件並ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ヘキ訴訟ハ之ヲ停止スルコトナシ

第二百三十條 合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲休暇部ト稱スル一若ハ二以上ノ部ヲ設ク

休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十三條ハ此ノ部ニモ亦之ヲ適用ス二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

第六章 法律上ノ共助

第三十一條 裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第三十二條 檢事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第三十三條 裁判所書記課モ亦其ノ權内ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第四編 司法行政ノ職務及監督權

第三十四條 合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第三十五條 司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一 司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三 控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四 地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ監督ス

第五 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

憲法附錄 裁判所構成法

第六 檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七 檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第八 檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第三百二十六條 前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一 官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二 官吏ノ職務上ト否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事
但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第三百二十七條 第十八條及第八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第三百二十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第三百二十八條 裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第三百二十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第三百二十九條 前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ満足セシ

ムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第四百十條 司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滯若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス
第四百十一條 裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第四百十二條 司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

第四百十三條 此ノ編ニ掲ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務タル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ボシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附則

第四百十四條 此ノ法律ノ施行ニ關ル規程並ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ抵觸スト雖モ當分ノ内仍ホ効力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

○裁判所構成法施行條例

朕裁判所構成法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月十八日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

憲法附錄 裁判所構成法

裁判所構成法施行條例

第一條 從來ノ治安裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條 始審裁判所從來ノ檢事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ檢事局トス控訴院大審院ノ檢事局モ亦同シ

第三條 區裁判所ノ管轄區域ヲ爲ス町村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ及ホスモノトス
第四條 裁判所構成法實施前他ノ裁判所第一審トシテ受理シタル民事訴訟及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス
既ニ爲シタル裁判ハ區裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五條 裁判所構成法ニ依リ地方裁判所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘキモ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民事刑事ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘシ

第六條 裁判所構成法實施前重罪裁判所ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條 裁判所構成法實施前始審裁判所ニ於テ受理シタル郡長區長戸長又ハ市長町長村長

ニ對スル民事訴訟ハ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ裁判シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對スル民事訴訟ハ其ノ控訴院之ヲ裁判スヘシ

第八條 裁判所構成法實施前高等法院ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス高等法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁判所ニ於テ受理シタルモノモ亦同シ

第九條 明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十條 明治十八年第十二號布告普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十一條 明治二十一年勅令第六十四號ハ仍効力ヲ有ス

區裁判所出張所ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

北海道及島嶼ニシテ區裁判所遠隔ノ地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ村長ニ委任シテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十二條 東京地方裁判所管内小笠原島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟ニシテ區裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱フ但シ刑事訴訟ノ手續ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ得

第十三條 沖繩縣ニ於テ民事刑事ノ訴訟及非訟事件ニシテ區裁判所及地方裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノハ裁判所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ但シ控訴院ノ裁判權ニ屬スルモノハ長崎控訴院ノ管轄トス

第十四條 樺戸空知釧路ノ集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ノ裁判ニ關ル明治十五年第十四號第四十一號及明治十八年第四十二號布告ハ仍効力ヲ有ス
前項ノ裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第十五條 明治二十一年勅令第七十一號清國並ニ朝鮮國駐在領事裁判規則ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十六條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章ノ要件ヲ必要トセス

第十七條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九條ノ要件ヲ必要トセス

第十八條 裁判所構成法實施後三年間ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ一年六箇月マテニ減縮スルコトヲ得

明治十七年太政官達第百二號判事登用規則及明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則ニ依リ試補ト爲リタル者ハ第二回試驗ヲ要セスシテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第十九條 裁判所構成法實施後一年間ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補職ヲ爲スコトヲ得

第二十條 三年以上裁判官又ハ檢察官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上舊參事院議員又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上法制局參事官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上司法省高等官(會計局ノ高等官ヲ除ク)ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第二十一條 裁判所構成法第二編第二章第七十四條及第七十五條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

(參照)

○第十六號布告(明治十五年三月三日)

樺戸集治監ノ囚人 假出獄免幽 罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ同獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

○第四十一號布告(明治十五年八月十二日)

空知集治監ノ囚人 假出獄免幽 罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ同獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

○第四十二號布告(明治十八年十二月十七日)

釧路集治監ノ囚人 假出獄免幽 罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ同獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

憲法附錄 裁判所構成法

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

○勅令第六十四號(明治二十一年九月十七日官報)

治安裁判所出張所ヲ置キ登記事務並期日ヲ定メ裁判事務ヲ取扱ハシム其位置及ヒ管轄區域ハ司法大臣之ヲ定ム

○地方裁判所支部及管轄表(司法省令第三號 廿三年八月十五日)

明治二十三年二月法律第六號裁判所構成法第三十一條ニ依リ地方裁判所支部及其管轄左表甲乙號ノ通相定メ甲號支部ニ於テハ重罪公判及民事第二審ヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル事務乙號支部ニ於テハ豫審ヲ要スルモノヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事第一審ノ事務ヲ取扱ハシム

但本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ實施ス

甲號

支部	管轄區裁判所
八王子	八王子
八日市場	八日市場 佐原
木更津	木更津 北條
土浦	土浦 麻生 鹿ヶ崎

支部	管轄區裁判所
下妻	下妻
栃木	栃木 佐野
熊谷	熊谷 大宮
高崎	高崎 富岡
澁松	澁松 掛川
松本	松本 上諏訪 大町 福島
飯田	飯田 伊奈
上山	上山 岩村田
新發田	新發田 村上
長岡	長岡 柏崎 六日町
高田	高田 糸魚川
相川	相川
宮津	宮津 釜山 福知山 舞鶴
洲本	洲本
姫路	姫路 社 龍野
豐岡	豐岡 村岡

憲法附録 裁判所構成法

磐井	水澤
大曲	横手
弘前	湯澤
八戸	五所川原

乙號

支部	管轄區裁判所
沼津	沼津
谷村	下田
國部	吉原
篠山	柏原
高梁	新見
玉島	笠岡
小松	大聖寺
高岡	杉木新
西條	今治
丸龜	觀音寺

四日市	四日市	龜山
上野	上野	
三次	三三	庄原
岩國	岩國	柳井津
萩	萩	
島原	島原	
唐津	唐津	伊萬里
八代	八代	人吉
延岡	延岡	高千穂
古川	古川	
宮古	宮古	
能代	能代	大館
		花輪

○判事懲戒法

朕判事懲戒法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

憲法附録 裁判所構成法

明治二十三年八月二十日

百五十八
内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第六十八號

判事懲戒法

第一章 總則

第一條 凡ソ判事ヲ懲戒スルハ左ノ場合ニ於テ懲戒裁判所ノ裁判ヲ以テスヘシ

第一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

第二 官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二章 懲罰

第二條 懲罰ハ左ノ如シ

第一 誣實

第二 減俸

第三 轉所

第四 停職

第五 免職

第三條 前條何レノ懲罰ヲ適用スヘキヤ否ハ所犯ノ輕重ニ從ヒ懲戒裁判所之ヲ定ムヘシ
懲戒裁判所ハ懲罰ノ適用ヲ定ムルニ當リ平生ノ行狀ヲ斟酌スルコトヲ得

第四條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額ノ三分ノ一以内ヲ減ス

第五條 轉所ハ他ノ裁判所若ハ他ノ職ニ轉セシム但シ情狀ニ因リ減俸ヲ併セ科スルコトヲ得

第六條 停職ハ三月以上一年以下職務ノ執行ヲ停止ス

停職中ハ俸給ヲ給セズ

第七條 免職ノ言渡ヲ受ケタル者ハ現任ノ官ヲ失ヒ及恩給ヲ受クルノ權ヲ失フ

第三章 懲戒裁判所

第八條 懲戒裁判所ハ各控訴院及大審院ニ之ヲ置ク

第九條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ハ控訴院長ヲ加ヘ其ノ院ノ判事五人ヲ以テ組立テ院長ヲ以テ長トス

大審院ニ於ケル懲戒裁判所ハ大審院長ヲ加ヘ其ノ院ノ判事七人ヲ以テ組立テ院長ヲ以テ長トス

第十條 控訴院長及大審院長ハ毎年部長ト協議シ前以テ懲戒裁判所ノ判事ヲ定メ並ニ裁判所長判事差支アルトキノ代理順序ヲ定ム

第十一條 懲戒裁判所ノ判事ノ忌避回避ニ付テハ治罪法ノ規程ヲ準用ス

第十二條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ノ檢事ノ職務ハ檢事長之ヲ行ヒ大審院ニ於ケル懲戒裁判所ノ檢事ノ職務ハ檢事總長之ヲ行フ

憲法附錄 裁判所構成法

第十三條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所長ハ其ノ院ノ裁判所書記ノ中ヨリ懲戒裁判所ノ書記ヲ命シ大審院ニ於ケル懲戒裁判所長ハ其ノ院ノ裁判所書記ノ中ヨリ懲戒裁判所ノ書記ヲ命ス

第十四條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ハ院長及部長ヲ除ク外其ノ院ノ判事及其ノ管轄區域内ノ總テノ下級裁判所ノ判事ニ對スル懲戒事件ヲ管轄ス

第十五條 大審院ニ於ケル懲戒裁判所ハ左ノ事件ヲ管轄ス

第一 第一審ニシテ終審トシテ大審院ノ判事、控訴院長及控訴院部長ニ對スル懲戒事件
第二 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ノ裁判ニ對スル抗告及控訴

第十六條 懲戒裁判所ノ管轄ハ所犯ノ地ニ拘ラス裁判手續開始ノトキ判事ノ奉職スル裁判所ニ依テ定マルモノトス

第四章 裁判手續

第十七條 懲戒裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ懲戒裁判ヲ開始スヘキヤ否ヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽クヘシ

第十八條 檢事ハ裁判手續ノ開始ヲ拒ミタル懲戒裁判所ノ決定ニ對シテハ七日ノ期間内ニ抗告裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第十九條 抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後抗告ヲ裁判ス若シ抗告ヲ正當ナリト認メタルトキハ裁判手續開始ノ決定ヲ爲シ管轄懲戒裁判所ヲシテ其ノ後ノ手續ヲ爲サヘシム

第二十條 開始決定ニハ懲戒スヘキ所爲及證據ヲ開示スヘシ

第二十一條 開始決定ハ檢事及被告ニ送達スヘシ

第二十二條 懲戒裁判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ懲戒裁判所長ハ懲戒裁判ヲ開始シタル院ノ判事若ハ管轄區域内ノ地方裁判所ノ判事ニ下調ヲ命スヘシ

第二十三條 下調ノ命ヲ受ケタル判事ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ

受命判事ハ被告ヲ呼出シテ事實ヲ陳述セシムルコトヲ得

被告ハ代理人ヲシテ代理セシムルコトヲ得

證人ハ治罪法ノ規程ニ從ヒ之ヲ訊問スヘシ

第二十四條 受命判事ハ證人訊問其ノ他證據集取ヲ他ノ裁判所ノ判事ニ囑託スルコトヲ得

第二十五條 受命判事ハ下調結了ノ後調査及一切ノ證據ヲ懲戒裁判所長ニ差出シ裁判所長ハ二十四時内ニ檢事ニ之ヲ送付スヘシ

第二十六條 檢事ハ三日内ニ意見ヲ付シ記録ヲ懲戒裁判所長ニ還付スヘシ

第二十七條 懲戒裁判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ口頭辯論ヲ爲スノ決定ヲ爲シ又ハ免訴ノ判決ヲ爲スヘシ

免訴ノ理由ナキモ現時裁判ニ著手スルコトヲ得サルトキハ訴追停止ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ノ裁判ハ檢事及被告ニ送達スヘシ

第二十九條 懲戒裁判所長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ被告ヲ呼出スヘシ

第三十條 辯論ハ之ヲ公行セス

第三十一條 口頭辯論ハ裁判所書記開始決定ヲ朗讀スルヲ以テ始マルモノトス

裁判長ハ先ツ被告ヲ審訊シ次テ證據調ヲ爲シ檢事及被告ヲシテ證據ノ結果ニ付辯論ヲ爲
カシメ被告ニ最終ノ發言ヲ許スヘシ

第三十二條 懲戒裁判所ハ被告若ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更ニ證據ヲ提出セシ
ムルコトヲ適當ナリトスルトキハ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ且辯論ヲ他日ニ延期スルコ
トヲ得

第三十三條 被告ハ他人ヲシテ辯護セシメ又ハ代理人ヲ用非ルコトヲ得

第三十四條 懲戒裁判所ハ事件ノ辯論既ニ十分ナリトスルトキハ之ヲ終結シ評議判決スヘ
シ

第三十五條 判決ハ即時ニ之ヲ言渡ス若シ即時ニ之ヲ言渡スコト能ハサルトキハ七日内ニ
判決ヲ被告及檢事ニ送達スヘシ

第三十六條 被告又ハ代理人辯論期日ニ出頭セスト雖判決ヲ言渡スコトヲ得

第三十七條 評議及言渡ニ關シテハ裁判所構成法ノ規程ニ從ヒ證據ノ判斷ニ關シテハ治罪
法ノ規程ニ從フ

第三十八條 被告及檢事ハ十四日ノ期間内ニ控訴ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ期間ハ判

決言渡ヨリ起算ス若シ被告出頭セサルトキハ判決ノ送達アリタルヨリ起算ス

第三十九條 控訴ノ申立ハ判決ヲ受ケタル懲戒裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

控訴狀ハ控訴ノ申立ヲ爲シタルヨリ十四日ノ期間内ニ之ヲ差出スヘシ

第四十條 懲戒裁判所ハ控訴ノ申立及控訴狀ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

對手人ハ送達ヲ受ケタルヨリ十四日ノ期間内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

第四十一條 懲戒裁判所ハ前條ノ期間經過シタル後其ノ書類ヲ控訴裁判所ニ送付スヘシ

控訴裁判所長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ被告ヲ呼出スヘシ

第四十二條 控訴裁判所ハ第一審ニ於テ申出テサル證據ヲ提出シタルトキハ之ヲ取調フヘ
シ若シ第一審ニ於テ訊問シタル證人ノ再訊問ヲ申立テタルトキハ其ノ重要ノ點ニ於テ陳

述ヲ異ニシ又ハ新ナル重要ノ事實ヲ證言セントノ推測十分ナルトキニ限り之ヲ許ス
職權ヲ以テスル訊問ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 第二審ニ於ケル裁判手續ハ第三十條乃至第三十七條ノ規程ヲ適用ス

第四十四條 控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却シ其ノ費用ヲ控訴人ニ負擔
セシムヘシ

控訴ヲ理由アリトスルトキハ第一審判決言渡ヲ取消シ控訴裁判所更ニ判決ヲ爲シ且其ノ
費用ニ付裁判ヲ爲スヘシ

控訴完結ノ後其ノ記錄ハ第二審ニ於テ爲シタル判決ノ認證アル謄本ト共ニ原裁判所ニ之

ヲ還付スヘシ

第四十五條 調書ノ調製期間ノ計算及書類ノ送達ニ付テハ治罪法ノ規程ニ從フ

懲戒裁判手續ノ費用ハ刑事裁判費用ニ關ル規程ニ從フ

第四十六條 懲戒裁判所ノ裁判ハ確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第四十七條 懲戒裁判確定シタルトキハ懲戒裁判所長ハ司法大臣ニ事件ノ情况ヲ報告シ且判決ノ謄本ヲ差出スヘシ

第四十八條 懲戒裁判所減俸轉所若ハ停職ノ裁判ヲ言渡シタルトキハ司法大臣其ノ執行ノ手續ヲ爲ス

第五章 職務停止

第四十九條 判事ハ左ノ場合ニ於テハ當然職務ヲ停止セララルルモノトス

第一 刑事裁判手續ニ於テ勾留セラレタルトキ

第二 刑事裁判ニ依テ官職ノ喪失ニ該ル刑ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第三 懲戒裁判ニ依テ免職ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第五十條 刑事裁判ニ依テ拘留ノ刑ノ確定裁判ヲ受ケタルトキハ其ノ刑期ノ終ルマテ當然職務ヲ停止セララルルモノトス

第五十一條 懲戒裁判所ハ懲戒事件ノ轉所停職若ハ免職ニ該當スルモノト思料スルトキハ何時ニテモ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ懲戒裁判手續結了ニ至ルマテ被告ノ職務ヲ

停止スルコトヲ決定スルヲ得但シ職權ヲ以テ決定ヲ爲ストキハ檢事ノ意見ヲ聽クヘシ

刑事裁判手續中何レノ場合ニ於テモ懲戒裁判所ハ其ノ手續結了ニ至ルマテ被告ノ職務ヲ

停止スルコトヲ決定スルヲ得

第五十二條 懲戒裁判所ノ決定ニ因リ又ハ當然職務ヲ停止セラレタル後其ノ判事ノ爲シタル職務上ノ行爲ハ無効トス

第五十三條 被告ハ職務停止ノ決定ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第六章 懲戒裁判手續ト刑事裁判手續トノ關係

第五十四條 刑事裁判手續中ハ同事件ニ付被告ニ對シ懲戒裁判手續ヲ開始スルコトヲ得ス

懲戒裁判所ニ於テ判決ノ言渡前同事件ニ付被告ニ對シ刑事訴追ノ始マリタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ懲戒裁判手續ヲ停止スヘシ

第五十五條 刑事裁判ニ依テ法律ニ觸レサルニ因リ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキト雖同一ノ所爲ニ付懲戒裁判手續ニ於テ仍ホ訴追スルヲ妨ケス

刑事裁判ニ依テ官職ノ喪失ヲ起ササル刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ懲戒裁判手續ニ於テ仍ホ訴追スルコトヲ得

第七章 補則

第五十六條 懲戒スヘキ所爲ハ本法實施前ニ關ルモノト雖本法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

憲法附錄 裁判所構成法

第五十七條 此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス

○判事檢事官等俸給令

朕茲ニ判事檢事官等俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

勅令第百五十八號

判事檢事官等俸給令

第一條 判事檢事ノ官等年俸ハ別表定ムル所ニ依ル

第二條 判事檢事ノ各職ニ付其人員官等年俸ヲ限定スルコト左ノ如シ

大審院

長

一人

勅任一等

年俸五千圓

但特ニ年俸五千五百圓ヲ給スルコトアルヘシ

部長

三人

勅任一等二等

年俸四千五百圓四千圓

判事

二十七人

勅任二等乃至奏任二等

年俸三千五百圓乃至千八百圓

大審院檢事局

檢事總長

一人

勅任一等

年俸五千圓又ハ四千五百圓

檢事

五人

勅任二等乃至奏任二等

年俸三千五百圓乃至千八百圓

控訴院

長

七人

東京勅任一等

年俸四千五百圓

大阪勅任二等

年俸四千圓三千五百圓

部長

十五人

奏任一等二等

年俸二千六百圓乃至千八百圓

判事

八十五人

奏任三等四等

年俸千六百圓乃至千圓

控訴院檢事局

檢事長

七人

勅任二等

年俸東京四 千 圓
大阪四 千 圓
其他三千五百圓三千圓

憲法附錄 裁判所構成法

檢事

二十八

百六十八

奏任一等乃至四等

年俸二千四百圓乃至千圓

地方裁判所

長

四十八人

東京奏任一等

年俸二千六百圓

其他奏任一等乃至三等

年俸二千四百圓乃至千六百圓

部長

九十八人

奏任三等四等

年俸千四百圓乃至千圓

判事

四百十五人

奏任四等乃至六等

年俸九百圓乃至五百圓

地方裁判所檢事局

檢事正

四十八人

東京奏任一等

年俸二千四百圓

其他奏任二等乃至四等

年俸二千二百圓乃至千百圓

檢事

百二十五人

奏任四等乃至六等

年俸千圓乃至五百圓

區裁判所

判事

八百四十人

奏任四等乃至六等

年俸九百圓乃至五百圓

區裁判所檢事局

檢事

二百七十五人

奏任四等乃至六等

年俸九百圓乃至五百圓

第三條 豫備判事ハ其人員ヲ三十五人トシ豫備檢事ハ其人員ヲ十五人トス

豫備判事豫備檢事ハ奏任六等ニ叙シ年俸四百圓ヲ給ス

司法官試補ハ其人員ヲ百十八人トス

司法官試補ハ其待遇ヲ奏任トシ年俸三百圓以下ヲ給ス

第四條 第二條ノ各職中年俸ニ等差アルモノハ每俸平等ニ其人員ヲ定ム但端數ノ人員ヲ生

スルトキハ最下級ヨリ漸次上級ノ人員ニ併合ス

第五條 裁判所構成法第六十二條ニ依リ新任スル判事又ハ檢事ニシテ直チニ補職スル者ハ

奏任六等ニ叙シ年俸五百圓ヲ給ス豫備判事又ハ豫備檢事ニシテ補職スル者モ亦同シ

裁判所構成法第六十五條第一項ニ依リ新任スル判事又ハ檢事ハ其補スヘキ職ノ最下ノ官

等ニ叙シ最下ノ年俸ヲ給ス

判事又ハ檢事ニシテ他ニ轉官シ若ハ退官シタル者ヲ更ニ判事又ハ檢事ニ任スルトキハ前

官ト同等若ハ其以下ノ官等ニ叙シ前官ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ヲ給ス

憲法附錄 裁判所構成法

百六十九

第六條 判事又ハ檢事ノ進級ハ關員アルトキニ限り之ヲ行フ
進級トハ陞等又ハ増俸ヲ謂フ

第七條 判事又ハ檢事ノ進級ハ第二條ニ掲ケタル各職毎ニ先任ノ順序ニ依リ之ヲ行フ但區
裁判所判事ハ地方裁判所判事ト併合シ區裁判所檢事局檢事ハ地方裁判所檢事局檢事ト併
合シテ先任順序ヲ定メ進級セシム

大審院ノ部長判事大審院檢事局ノ檢事總長檢事控訴院ノ部長判事控訴院檢事局ノ檢事
長檢事地方裁判所ノ部長及地方裁判所檢事局ノ檢事正ノ補職ハ拔擢ヲ以テ之ヲ行フコ
トヲ得但官等ヲ超越セシムルコトヲ得ス又其補スヘキ職ノ最下ノ年俸ニ非サレハ給スル
コトヲ得ス

東京大阪ノ控訴院ノ長同院檢事局ノ檢事長及東京大阪ノ地方裁判所ノ長同地方裁判所檢
事局ノ檢事正ノ補職モ亦拔擢ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得但官等ヲ超越セシムルコトヲ得ス
第八條 判事檢事ノ各職ニ於ケル先任順序ハ年俸ノ多寡ニ依リ之ヲ定ム年俸相同シキモノ
ハ年俸下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ其日付相同シキモノハ前年俸下賜辭令ノ日付ノ前後
ニ依リ其日付相同シキモノハ年齢ニ依リ之ヲ定ム

判事檢事ノ裁判所内ニ於ケル席次ハ前項ノ規程ニ從フ

第九條 判事又ハ檢事轉職スルトキハ前職ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ニ非サレハ給スルコ
トヲ得ス此場合ニ於テハ前職ノ年俸下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ後職ノ先任順序ヲ定ム

待命ノ判事又ハ檢事補職セララル、トキ及司法行政官吏ニシテ判事檢事タルノ資格ヲ有ス
ル者判事又ハ檢事ニ轉任シ補職セララル、トキモ亦同シ

退職ノ判事又ハ檢事補職セララル、トキハ前職ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ニ非サレハ給ス
ルコトヲ得ス此場合ニ於テハ後職ノ年俸下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ先任順序ヲ定ム

第十條 高等官官等俸給令第二條第三條第四條第六條第二十一條乃至第二十四條第二十六
條及第二十七條ハ判事檢事ニモ亦之ヲ準用ス

附則

第十一條 裁判所構成法實施ノ際叙任スル者ハ第七條第一項ノ規程ニ依ラス進級セシムル
コトヲ得

第十二條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ其官等年俸第二條ニ定メタル官等
年俸ヨリ高等多額ナルモ其官等年俸ノ儘其職ニ補スルコトヲ得

第十三條 本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス

官等	勅任		奏任							
	一等	二等	一等	二等	三等	四等	五等	六等		
年俸	上 五千四百	下 四千五百	上 四千四百	中 三千五百	下 二千四百	上 二千二百	中 一千四百	下 七百	上 六百	下 四百

○裁判所書記長書記ノ官等俸給

朕茲ニ裁判所書記長書記ノ官等俸給ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

勅令第五百十九號

裁判所書記長書記官等俸給

第一條 書記長ノ官等ハ奏任三等又ハ四等トス

裁判所書記ハ判任官一以下六等以上トス但判任官六等ニハ八圓九圓拾圓ノ月俸ヲ給ス
ルコトヲ得

裁判所書記見習ハ其待遇ヲ判任トシ月俸七圓以下ヲ給ス但特ニ拾圓マテヲ給スルコトアルヘシ

第二條 裁判所書記ノ各職ニ付其人員ヲ限定スルコト左ノ如シ

- 大審院 書記長 一人
- 裁判所書記 二十八人
- 大審院檢事局 裁判所書記 五人

控訴院

書記長

七人

裁判所書記

百四十五人

控訴院檢事局

裁判所書記

二十五人

地方裁判所

裁判所書記

七百七十五人

地方裁判所檢事局

裁判所書記

百五十人

區裁判所

裁判所書記

四千六百人

區裁判所檢事局

裁判所書記

四百八十五人

第三條 本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス

○執達吏規則

朕執達吏規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

憲法附錄 裁判所構成法

御名 御璽

百七十四

明治二十三年七月二十四日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

司法大臣 伯爵山田顯義

法律第五十一號

執達吏規則

- 第一條 執達吏ハ區裁判所ニ屬シ法律ニ從ヒ訴訟ニ關スル書類ヲ送達シ及裁判ヲ執行スルモノトス
- 第二條 執達吏ハ當事者ノ委任ニ依リ左ノ事務ヲ取扱フコトヲ得
- 第一 告知及催告ヲ爲スコト
- 第二 動産不動産ノ任意競賣ヲ爲スコト
- 第三 拒證書ヲ作ルコト
- 第三條 執達吏ハ法律規則ニ定メタル職務ノ外裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ニ應スル事務殊ニ左ノ事務ヲ取扱フノ義務アリ
- 第一 書類物品ノ送付ヲ爲スコト
- 第二 罰金科料過料ヲ徴收シ及沒收物品ヲ取上ケ若クハ賣却スルコト
- 第三 令狀ノ執行ヲ爲スコト

第四條 執達吏ハ所屬區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ノ監督ヲ受ク

他ノ判事又ハ檢事ニシテ職務上事務ヲ命シタルトキハ其事務ニ限り執達吏ニ對シ監督權ヲ有ス

第五條 執達吏ハ所屬區裁判所所在地ニ住居ヲ定ムヘシ但地方裁判所長ノ許可ヲ得タルト

キハ其區裁判所管轄内ニ限り他ノ地ニ住居ヲ定ムルコトヲ得

第六條 執達吏ハ所屬區裁判所所在地ニ役場ヲ設グヘシ

第七條 一區裁判所ニ數名ノ執達吏アルトキハ裁判所及檢事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所書記ヲ經テ委任スヘキ事務トヲ各執達吏ニ分配スヘシ此分配ハ成ルヘク土地ノ區域ニ從フヘシ

事務分配ハ毎司法年度ノ終ニ於テ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事前以テ之ヲ定ムル執達吏ノ爲シタル事務ハ事務分配上其事務他ノ執達吏ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ

第八條 執達吏ハ左ノ場合ニ於テハ其職務ノ施行ヨリ除斥セラレヘシ

- 第一 自己又ハ其婦カ當事者若クハ被害者タルトキ又ハ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者ト共同權利者共同義務者若クハ償還義務者タルノ關係ヲ有スルトキ
- 第二 自己又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖亦同シ

憲法附録 裁判所構成法

百七十五

第三 自己カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ法律上代理人ト爲ルノ權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ

第九條 執達吏ハ民事訴訟ニ付テ其婦又ハ自己若クハ其婦ノ親族ノ爲ニミ訴訟代理人及輔佐人トシテ法廷ニ出ルコトヲ得但烟族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖亦同シ

第十條 執達吏ハ其職務ヲ行フヘキ命令若クハ委任ヲ受クルトキハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 執達吏ハ特別ノ命令若クハ委任ヲ受ケタル場合ノ外自己ノ責任ヲ以テ左ニ掲クル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第一 執達吏ノ登用試験ニ及第シタル者

第二 執達吏ノ職務修習者ニシテ三箇月以上其職務ヲ修習シタル者

第三 裁判所書記ノ登用試験ニ及第シタル者

第四 區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行フニ適當ト認めタル者

第十二條 執達吏正當ノ理由アリテ其職務ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ之ヲ委任スルコトヲ得サルトキハ命令ヲ爲シタル裁判所及檢事局又ハ委任ヲ爲シタル本人ニ速ニ其旨ヲ通知スヘシ

委任ヲ爲シタル本人ニ通知スルコト能ハサルトキ又ハ急速ノ處分ヲ要スルトキハ其旨ヲ

區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ申立ツヘシ

第十三條 前條ノ場合其他執達吏差支アルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ第十一條ニ掲グル者ニ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條 執達吏ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者ハ區裁判所ヨリ交付スヘキ鑑札ヲ携帯スヘシ

第十五條 執達吏ハ裁判所書記ヲ經タルト否トヲ問ハス委任ヲ受ケ職務ヲ行フニ付テハ定規ノ手数料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ケ

執達吏ハ定規ノ手数料ヲ増減シ又ハ手数料及立替金ノ外報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 執達吏第三條ニ掲グル職務ヲ行フニ付テハ立替金ノ外手数料ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條 執達吏第十一條ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委任ヲ爲シタルトキハ其委任ヲ受ケタル者ニ報酬トシテ手数料十分ノ三以上ヲ支給スヘシ

第十八條 第十三條ノ場合ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其職務ニ付定メタル手数料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ケ

第十九條 執達吏一年間ニ收入セシ手数料百八拾圓ニ充タサルトキハ國庫ヨリ其不足額ヲ支給ス

第二十條 執達吏死亡シタルトキ又ハ停職免職若クハ勾留セラレタルトキハ區裁判所ノ一

人ノ判事若クハ監督判事ハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

第一 官印帳簿其他職務ニ關スル書類ヲ區裁判所ニ差出サシムルコト

第二 執達吏職務上保管シタル物品及書類ノ保全ニ必要ノ手續ヲ爲スコト

第二十一條 執達吏ハ官吏恩給法ニ照シ恩給ヲ受ク其恩給年額ハ第十九條ニ定メタル金額ヲ俸給額ト看做シテ算定ス

第二十二條 執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ル

附則

第二十三條 執達吏ヲ置カサル間ハ區裁判所書記執達吏ノ職務ヲ行フ此場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ第十一條ニ掲クル者又ハ自己ノ適當ト思量スル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

裁判所書記前項ノ委任ヲ爲シタルトキハ委任ヲ受ケタル者ニ執達吏ノ職務ニ付定メタル手數料十分ノ七以上ヲ支給スヘシ

○執達吏手數料

朕執達吏手數料規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年七月二十四日

內閣總理大臣

伯爵山縣有朋

司法大臣

伯爵山田顯義

法律第五十二號

執達吏手數料規則

第一條 執達吏ハ此規則ニ從ヒ手數料ヲ受ク

第二條 書類送達ノ手數料ハ一通ニ付五錢トス

第三條 有體動産及未タ土地ヨリ離レサル果實竝爲替證券其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ノ差押假差押ニ付テノ手數料ハ左ノ區別ニ從フ

執行スヘキ債權額 手數料

貳拾圓マテ 三拾錢

五拾圓マテ 五拾錢

百圓マテ 七拾五錢

貳百五拾圓マテ 壹圓

五百圓マテ 壹圓貳拾五錢

千圓マテ 壹圓五拾錢

千圓ヲ超ユルトキハ貳圓トス

若シ執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ本條ニ定メタル手數料ノ十分ノ三ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

憲法附錄 裁判所構成法

第四條 執達吏差押、假差押ヲ爲スヘキ場所ニ臨ムト雖差押フヘキ物ナキトキ又ハ差押フヘキ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ前條ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

第五條 民事訴訟法第五百五十六條第二項、第五百八十六條第二項、第六百十五條ノ場合及既ニ差押、假差押ニ著手シタル執達吏ノ死亡若クハ其他ノ理由ニ依リ委任ノ消滅シタルトキ物ヲ換價スル爲其委任ヲ引受ケタル場合ニ於テハ執達吏ハ第三條ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

第六條 特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ債務者ヨリ取上ケ之ヲ債權者ニ引渡ス場合ニ於テハ其手数料ヲ五拾錢トス若シ執務二時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ拾五錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖引渡スヘキ物ナキトキハ前項ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

第七條 民事訴訟法第七百三十一條第一項ノ場合ニ於テハ執務三時間以内ハ手数料ヲ五拾錢トス若シ其執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ拾五錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖船舶アラサルトキハ前項ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

第八條 民事訴訟法第六百四十三條第三項ニ依リ不動産ノ取調ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條ニ定メタル區別ニ從ヒ其手数料ヲ受ク

第九條 動産、不動産及船舶ノ競賣ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ但競賣ニ依リ得タル金額執行スヘキ債權額ニ超過スルトキハ其債權額ヲ以テ競賣金額ト看做ス

- 競賣金額
- 手数料
- 六拾錢
- 貳拾圓マテ
- 壹圓
- 五拾圓マテ
- 壹圓五拾錢
- 百圓マテ
- 貳圓
- 貳百五拾圓マテ
- 貳圓五拾錢
- 五百圓マテ
- 四圓
- 千圓マテ
- 以上千圓毎ニ壹圓ヲ加フ

任意競賣ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十條 執達吏執行行爲ヲ爲スヘキ場所ニ臨マサル以前ニ民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手数料ノ十分ノ三ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手数料ヲ三拾錢トス

第十一條 執達吏執行行為ヲ爲スヘキ場所ニ臨ミタル後民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手数料ヲ五拾錢トス

第十二條 第三條乃至第十一條ノ手数料ヲ受クヘキ行為ニハ強制執行ノ場合ニ於ケル左ノ行為ヲ包含ス

- 第一 警察上ノ援助ヲ求メ又ハ證人鑑定人ノ立會ヲ爲サシムルコト
- 第二 執行行為ニ屬スル催告其他ノ通知ヲ爲シ又ハ書類ノ送達ヲ爲スコト
- 第三 記名證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ及必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スコト
- 第四 支拂其他ノ給付、差押金錢及賣却金ヲ受取り、交付シ若クハ供託シ又ハ受取證書ヲ交付シ又ハ差押物ヲ還付スルコト

第五 競賣ノ公告ヲ爲スコト

第十三條 執達吏ハ立替金トシテ左ノ費用ノ辨濟ヲ受ク

- 第一 書記料
- 第二 郵便料、電信料
- 第三 公告料
- 第四 證人、鑑定人ノ手當

第五 職工、役夫ノ手當

第六 有價證券ノ記名書換及流通ヲ止メタル證券ノ流通ヲ回復スル爲ノ費用

第七 人及物ノ送致費用

第八 物ノ保存並監視ノ費用

第九 果實收獲ノ費用

第十 旅費

第十四條 前條ノ書記料ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ受ク

第一 法律ニ依リ又ハ利害關係人ノ求ニ依リ證書及記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ作リタルトキ

但法律ニ依リ交付スヘキ送達證書ノ謄本ハ此限ニ在ラス

第二 供託ヲ爲スニ際シ執行裁判所ニ差出スヘキ届書ヲ作リタルトキ

第三 差押命令ノ送達後第三債務者ノ爲ス陳述ヲ筆記シタルトキ

書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付貳錢五厘トス但十二行ニ滿タサルモ半枚ト看做シテ算定ス

第十五條 強制執行ニ關セサル告知及催告ヲ爲ストキハ其手数料拾錢ヲ受ク

第十六條 執達吏拒證書ヲ作リタルトキハ手数料拾錢ヲ受ク

拒者ノ營業場又ハ住居ノ問合ヲ爲シ拒證書ヲ作リタルトキハ手数料貳拾錢ヲ受ク

憲法附錄 裁判所構成法

第十七條 證人ニ支給スヘキ日當ハ貳拾錢以下鑑定人ニ支給スヘキ日當ハ五拾錢以下トシ
執達吏土地ノ情況ニ從ヒ之ヲ支給ス若シ一里以上ノ地ヨリ呼出シタルトキハ第十八條ノ
規定ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

第十八條 執達吏自己ノ役場ヨリ一里以上ノ地ニ至リ職務ヲ行フトキハ一里毎ニ拾錢以下
ノ旅費ヲ受ク但一里ニ滿タサルモ一里ト看做シテ算定ス

右旅費ノ額ハ控訴院長ノ認可ヲ經テ地方裁判所長之ヲ定ム

第十九條 執達吏ハ總テノ事務ヲ擔任スルニ當リ手数料及立替金ノ概算額ヲ委任者ヨリ豫
納セシム若シ豫納セサルトキハ委任ニ應セサルコトヲ得但裁判所及檢事局ノ命令ニ依ル
トキ又ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ爲ニ事務ヲ擔任スルトキハ此限ニ在ラス

第二十條 執達吏ハ委任ノ終了シタル後手数料及立替金ノ辨濟ヲ受クヘキモノトス但民事
訴訟法第五百五十四條ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十一條 執達吏裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ヲ行フ爲ニ要シタル立替金ハ三箇
月毎ニ確定シテ之ヲ支給ス

右立替金ハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第二十二條 訴訟上ノ救助ヲ付與シタル場合ニ於テハ執達吏ノ立替金ハ國庫ヨリ支辨ス但
債務者ヨリ辨濟シ能ハサル場合ニ限ル

第二十三條 執達吏ハ其職務執行ニ付作リタル書類ノ正本又ハ謄本ニ手数料及立替金ノ額

ヲ附記スヘシ又執務時間ニ應シ其辨濟ヲ受クヘキトキハ調書ニ其執務時間ヲ附記スヘシ
若シ之ヲ附記セサルトキハ最短ノ時間ニ付テ定メタル金額ヲ以テ算定ス

○執達吏登用規則(司法省令第二號)
廿三年八月一日

明治二十三年二月法律第六號裁判所構成法第九十五條及九十九條ニ依リ執達吏登用規則左ノ
通相定ム

執達吏登用規則

第一條 執達吏ニ任セラル、ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 年齢滿二十五歳以上タルコト

第二 陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコト

第三 身體健全ナルコト

第四 家計ノ整理シタルコト

第五 品行方正ナルコト

第六 試験ニ及第シタルコト

第二條 左ニ掲クル者ハ執達吏ニ任セラル、コトヲ得ス

第一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ非ス

第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

憲法附錄 裁判所構成法

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免カレサル者
第四 懲戒ノ處分ニ由リ免職セラレタル者

第三條 執達吏ノ試験ヲ受ケントスル者ハ少クトモ六箇月間區裁判所ニ於テ主トシテ執達吏ノ職務ヲ修習シ傍ラ書記ノ職務ヲ修習スルコトヲ要ス

第四條 職務修習ヲ爲ス者ハ職務上ノ祕密ヲ漏洩スヘカラス

第五條 職務修習ヲ願フニハ願書ニ兵役ニ關ル證書及履歷書ヲ添付シ之ヲ控訴院長ニ差出シ其許可ヲ受クヘシ

第六條 職務修習ノ許可ヲ爲シタルトキハ控訴院長ハ修習者ノ屬スヘキ區裁判所ヲ指定スヘシ

第七條 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ授業ヲ擔當スヘキ執達吏及裁判所書記ヲ選定シ職務ノ訓導ヲ爲サシムヘシ

第八條 控訴院長ハ修習者ノ行狀執達吏トナルニ不適當ナリト認ムルトキハ其修習ヲ止ムルコトヲ得

第九條 職務修習者試験ヲ受ケントスルニハ第一條第一乃至第五ノ諸件ヲ具備シタルコト及第二條ノ諸件ニ觸レサルコトヲ證明シ並修習ノ日數ヲ記入シタル願書ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ヲ經由シテ控訴院長ニ差出スヘシ
區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ前項ノ願書ニ意見ヲ付スヘシ

第十條 控訴院長ハ書類ヲ調査シ試験ノ許否ヲ定ムヘシ

第十一條 試験ハ地方裁判所ニ於テ毎年一回之ヲ行フ

第十二條 試験委員長及試験委員ハ地方裁判所及區裁判所ノ判事檢事ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第十三條 控訴院長ハ試験ヲ受クヘキ修習者ノ名簿ヲ試験委員長ニ送付スヘシ
前項ノ送付アリタルトキハ試験委員長ハ試験期日ヲ定メ之ヲ修習者ニ告知スヘシ

第十四條 試験ハ筆記口述ノ二様トス
口述試験ハ筆記試験ニ及第シタル者ニ之ヲ行フ

第十五條 試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

第一 民事訴訟法及治罪法ノ中書類送達及執行ニ關ル規程

第二 執達吏ニ關ル諸規則

第三 算術(加減乗除分數比例)

第四 讀書筆寫

第十五條 筆記試験問題ノ答案ハ裁判所ノ官吏監督シテ之ヲ作ラシム

第十六條 試験委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ區裁判所ニ於テ筆記試験問題ノ答案ヲ作ラシムルコトヲ得

第十七條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試験口述試験ノ成績ニ對スル委員過半